

授業評価報告書

- 2011年度～2014年度 -

埼玉大学工学部教育企画委員会 FD 部会

2015年10月

目次

． はじめに	2
． 教育改善への教員の取り組みと学生による授業評価	3
． 調査の実施方法と報告書の作成	4
1． 調査用紙の配布から回収まで	4
2． 集計と各授業担当者への結果報告	5
3． 報告書の作成	5
． 調査の実施状況	6
． 調査結果と分析	8
1． 学生の授業評価結果（講義・演習科目）	8
2． 学生の授業評価結果（実験科目）	10
3． 授業に対する満足度の年次推移	13
4． 学生の授業への取り組み	13
． 授業評価結果のフィードバックの取り組み	30
． おわりに	31
付録資料	32

はじめに

本報告書は、平成 23 年度から 26 年度までの、授業評価を中心とする工学部の FD 活動の状況をまとめたものです。工学部では他の学部在先駆け、平成 13 年度より FD 活動を行ってまいりました。「十年一昔」とも言われるように十年を一区切りと考えるならば、平成 23 年度から 26 年度までは第二期の最初の四年間と考えることもできます。

授業評価は全学的な FD 活動の一つの大きな柱であり、個々の授業科目ごとに学期末に学生に対して実施する無記名アンケートの結果から当該授業を評価するものです。工学部全体ないしは学部を構成する 7 学科ごとに平均して見ますと、経年変化に伴う細かなゆらぎはあるものの、第一期すなわち平成 13 年度から 22 年度の期間中には全体に右肩上がりの傾向が続き、第二期当初にはほぼ全てのアンケート項目について 5 点満点で 4 点台の評価に達し、ほぼ飽和状態に入っているように思えます。これに甘んずることなく、今後も工学部教員一同、教育力向上に励んでいく所存であります。

工学部では平成 15 年度より年に一度 FD シンポジウムを開催してまいりました。毎年、その時々の方の学部の諸状況を考慮した上でタイムリーなテーマを設定し、識者にご講演をお願いしております。目から鱗が落ちるご講演をいただき、普段気が付きにくい貴重な情報の共有を図るとともに、今後の検討の契機として活かしております。平成 23 年度から 26 年度の四年間には、「コミュニケーション力と学力を考える」(平成 23 年度)、「初年次教育を考える」(平成 24 年度)、「授業における新しい IT 基盤の活用について」(平成 25 年度)、「新しい TA の活用について」(平成 26 年度)をテーマに取り上げました。毎年恒例になっておりますが、シンポジウムの際には授業評価の高い教員にベストレクチャー賞を授与し、受賞者からは授業に際しての工夫をまとめたワンポイントアドバイスをいただいております。ワンポイントアドバイスを拝聴して感じることは、良き授業の仕方は人の数ほどある、ということ。各先生方が個性的な授業を展開するなかで、独自のカラーを打ち出し、それぞれが学生の心を掴んでいるように思えます。

また、工学部では毎年、教員相互の授業参観(オープンクラス)を実施しております。平成 24 年度からは原則として全ての講義がその対象となりました。授業参観をした教員には感想や意見を無記名アンケートに自由にお書きいただき、その内容は授業担当教員にフィードバックされる仕組みになっております。また、授業を参観して自身の担当授業の改善に役立つことがあれば無記名アンケートに自由にお書きいただき、その内容は FD 部会のウェブサイトを開示して情報共有を図ることとしております。

「評価」というと兎角冷たい印象を与えがちですが、前向きにとらえ、授業評価を中心とする FD 活動全般が私たちの長所を一層伸ばすクリエイティブな教育環境の醸成に繋がればと考えております。本報告書が今後の FD 活動の一助となれば幸いに存じます。

平成 27 年 10 月
工学部長 重原孝臣

． 教育改善への教員の取り組みと学生による授業評価

本報告書は、2007年9月3日制定の「工学部・教員研修（FD）ガイドライン」の規定に基づき、2015年度工学部教育企画委員会FD部会が、2011年度から2014年度までの4年間の工学部における「学生による授業評価」の結果およびその分析と評価をとりまとめたものである。工学部における「学生による授業評価」の結果およびその分析と評価は、2011年度に続き2回目の報告となる。なお、集計及び調査結果の分析は、2013年度の教育企画室により作成された報告書に準じて行った。

工学部では、教員の授業技能・教育力の向上を目的として多くのFD活動を他学部にも先駆けて実施してきた。「学生による授業評価」はすでに2001年度から実施しているほか、2003年度からは毎年1回、教職員だけでなく学生にも公開した「FDシンポジウム」を開催している。また、上述したように2007年9月に「工学部・教員研修（FD）ガイドライン」を制定し、さらに「教員相互の授業参観（オープンクラス）」を毎年前期ないし後期に実施して、授業改善への積極的な取り組みを明確にしている。授業技能優秀者の表彰、すなわち「ベストレクチャー賞」の授与も同年から実施しているFD活動の一つである。その後現在に至るまでこれらのFD活動を継続的に行っており、各教員にはすでに定着しつつある。したがって、本報告書は、2011年度以降継続して行ってきた工学部のFD活動の成果、すなわち教員の教育改善への取り組みの結果を、学生による授業評価結果から読み取る良い資料になると考えられる。

学生による授業評価には、教員の授業改善に向けた努力がいろいろな形で反映されており、実際に今回の分析結果は、「授業評価報告書 2007-2010」での報告と同様に工学部全体としてこの4年間の学生による授業評価が向上しているという結果となっている。

本報告書に記載の調査・分析結果を更なる教育改善につなげていただくことを願うものである。

2015年度工学部教育企画委員会FD部会

部会長	池野 順一
副部会長	浅枝 隆
委員	土方 泰斗
委員	内田 淳史
委員	小玉 康一
委員	神島 謙二
委員	茂木 秀則

・ 調査の方法と報告書の作成

1 . 調査用紙の配布から回収まで

学生による授業評価は、2003 年度より教育企画室が全学共通のフォーマットによって実施してきた。2014 年度の評価項目は、付録資料「1 . 学生による授業評価調査用紙（資料 1-1 及び 1-2）」となっている。

2012 年度及び 2014 年度に以下のとおり評価項目の追加・修正・削除を行っている。

追加項目

2011 年度

この授業を理解するうえで、学年、前後期の時期などは適切でしたか。

この授業を理解するうえで、他の科目との関係などは適切でしたか。

教員は、到達目標にあった内容の授業を行いましたか。

2014 年度

シラバスに記載された事前準備・事後展開学修について、当該学修の指示・解説等は適切でしたか。

修正項目

2012 年度

修正前

授業を受けるに当たって、予習や復習（レポート作成を含む）をしましたか。

修正後

この授業 1 回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間は平均何時間ですか。

2014 年度

修正前

この授業 1 回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間は平均何時間ですか。

修正後

この授業 1 回当たり事前準備・事後展開学修に費やした時間は平均何時間ですか。

削除項目（2014 年度）

この授業を理解するうえで、学年、前後期の時期などは適切でしたか。

この授業を理解するうえで、他の科目との関係などは適切でしたか。

調査実施要項については、付録資料『2 . 「学生による授業評価調査」実施要項（資料 2-1～2-7）』とおりである。

2014 年度に以下のとおり変更を行っている。

・ 記入済み調査用紙入り封筒の提出は教員自ら行うこととなった。（教員は学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ封をするところを確認した後、当該封筒を学生から受け取り学務係に提出する。）

2．集計と各授業担当者への結果報告

教育企画室では、学期ごとに以下の集計結果表を作成した。

授業科目別（講義・演習、実験）

調査項目評定平均一覧（小分類別）

学科等別評定平均一覧（中分類別）

学科等別集計（中分類別）

学部等別（大分類別）

学年別回答率・回答者数・評定平均一覧（中分類別）

学年別回答率・回答者数・評定平均一覧（大分類別）

また、調査用紙の裏面に自由に記述された授業に対する希望や感想等（2013年度からは「良い点」と「改善すべき点」に分けて記述）を、今後の授業内容の改善に資するため、授業科目別集計表と一緒に各教員に戻している。ただし、2009年度より、教員に対する根拠のない誹謗・中傷の類と判断されるものは削除して配布している。

3．報告書の作成

本報告書は、教育企画室による集計結果に基づいて、工学部教育企画委員会FD部会が作成した。なお、基本的構成は教育企画室作成の「学生による授業評価の報告書2013」(2014（平成26）年9月）に準拠した。

・ 調査の実施状況

2011～2014年度の学生による授業評価の調査実施状況を、講義本数、受講者数、回収講義本数、回答者数、回収率の集計表として、表1に示す。表中の評価対象講義本数は、5人以下の少人数講義を除いた授業評価対象の講義本数である。

講義本数に対する実施率(回収講義本数/評価対象講義本数)は2011～2014年度において93～100%で推移しており、ほぼすべての講義・実験において授業評価が実施されている。今後もこの実施率を維持する努力が必要である。

次に授業評価を実施した講義・実験の回収率(回収講義回答者数/回収講義受講者数)をみると、73～77%の間でほぼ一定となっている。回収率があまり高くないのは、授業評価が実施される学期の終盤で実質の受講者が減っていることが主な原因と考えられる。

表1 授業評価アンケート調査実施結果

2011前期															回収率		
評価対象講義						回収講義						回収率					
講義本数			受講者数			講義本数			受講者数			回答者数			講義本数	回答者数	回答者数 ²
講義演習	実験	計(A)	講義演習	実験	計(B)	講義演習	実験	計(C)	講義演習	実験	計(D)	講義演習	実験	計(E)	(C/A)	(E/B)	(E/D)
206	20	226	13,564	680	14,244	206	20	226	13,654	680	14,334	10,195	605	10,800	100%	75%	75%

2011後期															回収率		
評価対象講義						回収講義						回収率					
講義本数			受講者数			講義本数			受講者数			回答者数			講義本数	回答者数	回答者数 ²
講義演習	実験	計(A)	講義演習	実験	計(B)	講義演習	実験	計(C)	講義演習	実験	計(D)	講義演習	実験	計(E)	(C/A)	(E/B)	(E/D)
197	16	213	12,388	538	12,926	192	15	207	12,177	521	12,698	8,799	483	9,282	97%	71%	73%

2012前期															回収率		
評価対象講義						回収講義						回収率					
講義本数			受講者数			講義本数			受講者数			回答者数			講義本数	回答者数	回答者数 ²
講義演習	実験	計(A)	講義演習	実験	計(B)	講義演習	実験	計(C)	講義演習	実験	計(D)	講義演習	実験	計(E)	(C/A)	(E/B)	(E/D)
211	21	232	13,443	664	14,107	208	21	229	13,346	664	14,010	10,125	572	10,697	98%	75%	76%

2012後期															回収率		
評価対象講義						回収講義						回収率					
講義本数			受講者数			講義本数			受講者数			回答者数			講義本数	回答者数	回答者数 ²
講義演習	実験	計(A)	講義演習	実験	計(B)	講義演習	実験	計(C)	講義演習	実験	計(D)	講義演習	実験	計(E)	(C/A)	(E/B)	(E/D)
212	19	231	12,253	557	12,810	202	13	215	11,669	326	11,995	8,658	317	8,975	93%	70%	75%

2013前期															回収率		
評価対象講義						回収講義						回収率					
講義本数			受講者数			講義本数			受講者数			回答者数			講義本数	回答者数	回答者数 ²
講義演習	実験	計(A)	講義演習	実験	計(B)	講義演習	実験	計(C)	講義演習	実験	計(D)	講義演習	実験	計(E)	(C/A)	(E/B)	(E/D)
213	21	234	13,380	640	14,020	210	20	230	13,326	548	13,874	10,222	489	10,711	98%	76%	77%

2013後期															回収率		
評価対象講義						回収講義						回収率					
講義本数			受講者数			講義本数			受講者数			回答者数			講義本数	回答者数	回答者数 ²
講義演習	実験	計(A)	講義演習	実験	計(B)	講義演習	実験	計(C)	講義演習	実験	計(D)	講義演習	実験	計(E)	(C/A)	(E/B)	(E/D)
215	20	235	11,658	678	12,336	208	20	228	11,437	678	12,115	8,622	426	9,048	97%	73%	75%

2014前期

評価対象講義										回収講義						回収率		
講義本数			受講者数			講義本数			受講者数			回答者数			講義本数	回答者数	回答者数 ²	
講義演習	実験	計(A)	講義演習	実験	計(B)	講義演習	実験	計(C)	講義演習	実験	計(D)	講義演習	実験	計(E)	(C/A)	(E/B)	(E/D)	
212	10	222	13,604	599	14,203	210	10	220	13,036	599	13,635	9,891	474	10,365	99%	72%	76%	

2014後期

評価対象講義										回収講義						回収率		
講義本数			受講者数			講義本数			受講者数			回答者数			講義本数	回答者数	回答者数 ²	
講義演習	実験	計(A)	講義演習	実験	計(B)	講義演習	実験	計(C)	講義演習	実験	計(D)	講義演習	実験	計(E)	(C/A)	(E/B)	(E/D)	
218	9	227	11,758	589	12,347	207	9	216	11,249	589	11,838	8,354	504	8,858	95%	71%	75%	

回収率について

- 「講義本数」 評価対象講義本数 / 回収講義本数
- 「回答者数」 回収講義回答者数 / 評価対象講義受講者数
- 「回答者数²」 回収講義回答者数 / 回収講義受講者数

． 調査結果と分析

1． 学生の授業評価結果（講義・演習科目）

講義・演習科目に対する授業評価結果を表2～表5に示す。

「授業評価報告書 2007-2011」で分析した点のうち、時間通りに講義が行われているかどうかの点について評価結果を分析してみると、質問項目 No.10(2014年度は No.9)の「教員は、授業時間どおり行いましたか」について、前回の報告書での数値（2010年度後期 4.18）に対し、2011年度前期（後期）の平均値が 4.24（4.27）、2014年度前期（後期）の平均値では 4.32（4.31）となり、より改善が進んでいると考えられる。

また、前回の報告書で相対的に平均値が低かった質問項目 No.11（2014年度は No.10）「教員は授業への学生の参加（質問、発言）を促し、あなたの質問に対してあなたが分かるように答えましたか。」については、前回の報告書での数値（2010年度後期 3.87）に対し、2014年度前期（後期）の平均値では 4.02（4.07）と数値に改善が見られるが、相対的には数値が低いため、学生が授業への積極的な参加を促すような工夫が引き続き求められるものと考えられる。

表2 2011年度 授業評価結果(講義・演習)

2011 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	13	14	15
601	機械工学科	1,863	4.00	4.03	4.18	4.10	4.07	3.96	4.08	4.09	3.99	4.23	3.81	4.04	4.05	4.65	3.82	3.88
602	電気電子システム工学科	1,909	4.10	4.07	4.20	4.09	4.11	3.99	4.10	4.15	3.97	4.24	3.93	4.04	4.08	4.72	4.03	3.84
603	情報システム工学科	1,337	4.11	4.19	4.28	4.24	4.21	4.12	4.20	4.25	4.14	4.33	4.10	4.19	4.20	4.63	3.64	3.77
604	応用化学科	1,482	4.07	4.06	4.12	4.16	4.13	4.06	4.11	4.20	3.96	4.18	3.94	4.08	4.09	4.56	3.51	3.88
605	機能材料工学科	1,042	4.14	4.12	4.26	4.18	4.19	4.07	4.18	4.24	4.01	4.26	4.00	4.12	4.15	4.67	3.88	3.68
606	建設工学科	1,697	3.99	3.98	4.08	4.02	4.00	3.93	4.03	4.05	3.93	4.09	3.82	3.97	3.99	4.62	3.91	3.82
607	環境共生学科	494	4.10	4.06	4.25	4.17	4.13	4.04	4.10	4.23	3.99	4.36	3.98	4.04	4.12	4.72	3.86	4.22
平均値			4.07	4.07	4.19	4.14	4.12	4.02	4.11	4.17	4.00	4.24	3.94	4.07	4.10	4.65	3.81	3.87

2011 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	13	14	15
601	機械工学科	1,492	3.95	4.01	4.09	4.12	4.07	3.99	4.10	4.14	3.97	4.23	3.90	4.04	4.05	4.47	3.72	3.83
602	電気電子システム工学科	1,486	4.14	4.09	4.21	4.16	4.14	4.09	4.16	4.18	4.02	4.30	3.97	4.10	4.13	4.68	3.90	3.77
603	情報システム工学科	1,002	4.14	4.18	4.31	4.28	4.21	4.10	4.18	4.22	4.13	4.35	4.03	4.16	4.19	4.66	3.83	3.93
604	応用化学科	1,322	4.17	4.21	4.24	4.29	4.20	4.16	4.28	4.33	4.16	4.42	4.10	4.22	4.23	4.49	3.57	3.83
605	機能材料工学科	765	4.11	4.12	4.17	4.21	4.19	4.13	4.18	4.23	4.01	4.25	4.03	4.12	4.15	4.60	3.83	3.89
606	建設工学科	1,537	4.06	3.99	4.11	4.14	4.01	3.97	4.02	4.06	3.88	4.12	3.91	3.98	4.02	4.55	3.93	3.78
607	環境共生学科	558	4.05	4.14	4.15	4.15	4.04	4.04	4.14	4.21	4.06	4.21	4.05	4.02	4.11	4.61	3.89	3.82
平均値			4.09	4.11	4.18	4.19	4.12	4.07	4.15	4.20	4.03	4.27	4.00	4.09	4.13	4.58	3.81	3.84

表3 2012年度 授業評価結果(講義・演習)

2012前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	13	14	15
601	機械工学科	1,898	4.12	4.09	4.22	4.21	4.14	4.04	4.16	4.17	4.05	4.27	3.95	4.10	4.13	4.59	3.18	3.90
602	電気電子システム工学科	1,763	4.11	4.08	4.22	4.15	4.20	4.08	4.16	4.21	3.99	4.33	3.99	4.08	4.13	4.71	3.23	3.83
603	情報システム工学科	1,263	4.13	4.18	4.20	4.25	4.18	4.06	4.19	4.28	4.09	4.37	4.02	4.10	4.17	4.66	2.96	3.93
604	応用化学科	1,579	4.09	4.12	4.25	4.21	4.15	4.11	4.21	4.24	4.05	4.39	4.04	4.16	4.17	4.57	3.21	3.85
605	機能材料工学科	1,112	4.23	4.17	4.27	4.27	4.31	4.17	4.26	4.31	4.13	4.39	4.14	4.19	4.24	4.65	3.35	3.99
606	建設工学科	1,605	4.02	3.98	4.07	4.04	4.04	3.97	4.02	4.05	3.88	4.15	3.84	3.96	4.00	4.51	3.35	3.77
607	環境共生学科	535	4.28	4.22	4.23	4.24	4.27	4.11	4.30	4.38	4.13	4.43	4.15	4.15	4.24	4.65	3.45	3.78
平均値			4.14	4.12	4.21	4.20	4.19	4.08	4.18	4.23	4.05	4.33	4.02	4.11	4.15	4.62	3.25	3.86

2012後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	13	14	15
601	機械工学科	1,596	4.03	3.96	4.05	4.12	4.04	4.00	4.05	4.09	3.86	4.20	3.90	3.96	4.02	4.54	3.00	3.78
602	電気電子システム工学科	1,443	4.18	4.14	4.29	4.22	4.24	4.15	4.23	4.25	4.05	4.32	4.08	4.17	4.19	4.74	3.14	3.82
603	情報システム工学科	1,007	4.22	4.28	4.34	4.33	4.25	4.20	4.29	4.28	4.19	4.36	4.15	4.25	4.26	4.67	3.32	4.06
604	応用化学科	1,142	4.18	4.18	4.26	4.24	4.23	4.16	4.29	4.33	4.11	4.45	4.03	4.18	4.22	4.55	3.06	3.83
605	機能材料工学科	870	4.26	4.28	4.29	4.37	4.31	4.29	4.31	4.38	4.15	4.31	4.16	4.31	4.28	4.65	3.38	3.92
606	建設工学科	1,426	4.09	4.06	4.16	4.18	4.02	3.99	4.09	4.13	3.97	4.24	3.91	4.03	4.07	4.53	3.45	3.92
607	環境共生学科	499	4.10	4.07	4.10	4.17	4.15	4.04	4.13	4.17	4.09	4.21	4.01	4.02	4.11	4.65	3.15	3.69
平均値			4.15	4.14	4.21	4.23	4.18	4.12	4.20	4.23	4.06	4.30	4.03	4.13	4.17	4.62	3.21	3.86

表4 2013年度 授業評価結果(講義・演習)

2013前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	13	14	15
601	機械工学科	2,004	4.09	4.09	4.23	4.19	4.19	4.03	4.18	4.18	4.03	4.28	3.90	4.09	4.12	4.52	2.69	3.82
602	電気電子システム工学科	1,828	4	4.12	4.26	4.22	4.25	4.13	4.21	4.25	4.06	4.24	4.06	4.16	4.18	4.74	2.97	3.90
603	情報システム工学科	1,348	4	4.28	4.34	4.33	4.29	4.16	4.32	4.34	4.21	4.44	4.17	4.23	4.28	4.72	2.82	3.96
604	応用化学科	1,597	4	4.20	4.25	4.28	4.25	4.17	4.28	4.37	4.13	4.46	4.08	4.20	4.24	4.66	2.84	3.81
605	機能材料工学科	1,054	4	4.22	4.31	4.30	4.30	4.20	4.28	4.34	4.15	4.38	4.15	4.23	4.26	4.70	2.83	3.96
606	建設工学科	1,593	4	3.98	4.10	4.09	4.08	3.98	4.02	4.02	3.90	4.15	3.87	3.98	4.02	4.40	2.95	3.70
607	環境共生学科	485	4	4.17	4.17	4.19	4.15	4.03	4.19	4.28	4.13	4.44	4.05	4.08	4.17	4.66	2.95	3.73
平均値			4.17	4.15	4.24	4.23	4.22	4.10	4.21	4.26	4.09	4.34	4.04	4.14	4.18	4.63	2.86	3.84

2013後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	13	14	15
601	機械工学科	1,576	4.09	4.10	4.17	4.22	4.15	4.12	4.16	4.20	4.06	4.28	3.98	4.11	4.14	4.50	2.62	3.78
602	電気電子システム工学科	1,394	4.21	4.17	4.28	4.27	4.26	4.18	4.26	4.27	4.11	4.29	4.09	4.19	4.22	4.66	2.74	3.84
603	情報システム工学科	1,113	4.27	4.32	4.36	4.39	4.35	4.27	4.37	4.38	4.27	4.45	4.23	4.35	4.33	4.75	2.84	4.00
604	応用化学科	1,334	4.22	4.21	4.30	4.31	4.30	4.26	4.29	4.37	4.10	4.47	4.13	4.24	4.27	4.66	2.83	3.93
605	機能材料工学科	783	4.26	4.23	4.32	4.35	4.30	4.25	4.26	4.32	4.15	4.33	4.16	4.25	4.27	4.58	2.95	3.93
606	建設工学科	1,436	4.11	4.08	4.18	4.20	4.11	4.03	4.14	4.14	4.04	4.26	3.97	4.09	4.11	4.36	3.01	3.85
607	環境共生学科	410	3.99	4.01	3.99	4.02	4.03	3.83	4.05	4.18	3.98	4.20	3.93	3.94	4.01	4.55	2.60	3.69
平均値			4.17	4.16	4.23	4.25	4.21	4.13	4.22	4.27	4.10	4.33	4.07	4.17	4.19	4.58	2.80	3.86

表5 2014年度 授業評価結果(講義・演習)

2014前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値														
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13	14
601	機械工学科	1,961	4.01	3.97	3.97	4.14	4.07	4.07	4.05	3.91	4.25	3.79	3.98	4.02	4.54	2.51	3.70
602	電気電子システム工学科	1,599	4.04	4.04	3.97	4.13	4.06	4.10	4.10	3.91	4.21	3.95	3.99	4.05	4.61	2.62	3.69
603	情報システム工学科	1,356	4.21	4.21	4.20	4.31	4.28	4.28	4.28	4.18	4.38	4.11	4.19	4.24	4.73	2.61	3.95
604	応用化学科	1,460	4.21	4.19	4.20	4.26	4.29	4.29	4.33	4.13	4.45	4.11	4.24	4.25	4.63	2.62	3.89
605	機能材料工学科	1,107	4.18	4.17	4.15	4.24	4.22	4.22	4.26	4.09	4.37	4.13	4.16	4.20	4.69	2.69	3.81
606	建設工学科	1,583	4.04	4.02	4.03	4.13	4.08	4.09	4.08	3.99	4.17	3.93	4.03	4.05	4.39	2.75	3.61
607	環境共生学科	433	4.13	4.17	4.21	4.22	4.24	4.27	4.37	4.17	4.42	4.11	4.17	4.22	4.51	2.70	3.52
平均値			4.12	4.11	4.10	4.20	4.18	4.19	4.21	4.05	4.32	4.02	4.11	4.15	4.58	2.64	3.74

2014後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値														
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13	14
601	機械工学科	1,380	4.11	4.09	4.11	4.17	4.19	4.15	4.20	4.06	4.28	3.95	4.10	4.13	4.57	2.52	3.80
602	電気電子システム工学科	1,508	4.12	4.12	4.14	4.21	4.19	4.18	4.21	4.12	4.25	4.06	4.15	4.16	4.63	2.46	3.76
603	情報システム工学科	1,111	4.12	4.11	4.11	4.23	4.23	4.21	4.21	4.13	4.31	4.10	4.18	4.18	4.67	2.68	3.97
604	応用化学科	1,088	4.23	4.23	4.20	4.27	4.24	4.30	4.33	4.13	4.44	4.13	4.21	4.25	4.59	2.46	3.77
605	機能材料工学科	794	4.29	4.29	4.31	4.35	4.37	4.34	4.38	4.27	4.46	4.22	4.32	4.33	4.57	2.79	3.84
606	建設工学科	1,333	4.03	3.99	3.97	4.03	4.08	4.04	4.06	3.98	4.12	3.94	4.02	4.02	4.43	2.79	3.71
607	環境共生学科	515	4.09	4.10	4.15	4.18	4.12	4.16	4.27	4.14	4.28	4.05	4.14	4.15	4.36	2.45	3.67
平均値			4.14	4.13	4.14	4.21	4.20	4.20	4.24	4.12	4.31	4.07	4.16	4.17	4.55	2.59	3.79

2. 学生の授業評価結果(実験科目)

次に、実験科目に対する学生による授業評価結果を表6～表9に示す。なお、実験科目がない学科及び当該学期に実験科目がない学科については空欄となっている。

全体的な傾向としては、年度毎に改善されてきていることが読み取れる。中でも前回の報告書での結果に引き続き、質問項目 No.4(2014年度はNo.5)「実験は、あなたの思考力を養うため、あるいは専門知識を高めるうえで役に立ちましたか。」の評価がすべての年度で他の質問項目より平均値が高く、学生にとって実験科目は思考力、専門知識を高める上で重要であると引き続き認識されているようである。

表6 2011年度 授業評価結果(実験)

2011 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均	14	15
601	機械工学科	108	4.06	4.07	4.06	4.27	3.98	4.04	3.94	4.26	4.06	4.08	4.06	4.16	4.04	4.08	3.98	3.91
602	電気電子システム工学科	170	4.26	4.24	4.35	4.41	4.34	4.34	4.22	4.43	4.26	4.26	4.26	4.21	4.25	4.29	4.05	4.30
603	情報システム工学科																	
604	応用化学科	102	4.09	4.19	4.10	4.32	3.98	3.85	4.11	4.21	3.98	3.99	4.01	4.07	4.02	4.07	4.73	4.47
605	機能材料工学科	99	4.31	4.27	4.20	4.35	4.18	4.18	3.95	4.20	4.25	4.18	4.10	3.98	4.09	4.17	4.56	4.23
606	建設工学科	77	4.34	4.42	4.30	4.56	4.14	4.38	4.00	4.22	4.21	4.16	4.17	3.77	4.18	4.22	3.99	3.99
607	環境共生学科	49	3.82	3.90	3.84	4.10	4.00	4.00	3.67	4.06	3.47	3.73	3.86	3.65	3.71	3.83	3.73	4.06
平均値			4.15	4.18	4.14	4.34	4.10	4.13	3.98	4.23	4.04	4.07	4.08	3.97	4.05	4.11	4.17	4.16

2011 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均	14	15
601	機械工学科	91	4.04	4.03	4.09	4.18	3.87	4.02	3.76	4.11	3.90	4.03	3.99	4.11	3.87	4.00	4.22	4.20
602	電気電子システム工学科	156	4.26	4.24	4.26	4.47	4.24	4.26	4.11	4.37	4.24	4.21	4.18	4.10	4.24	4.24	4.45	4.17
603	情報システム工学科																	
604	応用化学科	135	4.34	4.36	4.24	4.53	4.27	4.28	3.84	4.37	4.30	4.27	4.30	4.17	4.28	4.27	4.41	4.40
605	機能材料工学科	101	4.30	4.10	4.21	4.27	4.07	3.98	3.80	4.11	4.00	4.12	3.97	3.78	3.96	4.05	4.44	4.14
606	建設工学科																	
607	環境共生学科																	
平均値			4.23	4.18	4.20	4.36	4.11	4.14	3.88	4.24	4.11	4.16	4.11	4.04	4.09	4.14	4.38	4.23

表7 2012年度 授業評価結果(実験)

2012 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均	14	15
601	機械工学科	150	4.07	4.09	3.99	4.28	3.97	4.03	3.81	4.12	3.89	3.97	4.00	4.05	4.05	4.02	4.08	4.37
602	電気電子システム工学科	76	4.16	4.08	4.01	4.28	4.14	4.07	3.99	4.30	3.83	4.03	3.95	3.79	3.95	4.04	4.36	4.07
603	情報システム工学科																	
604	応用化学科	127	4.07	4.04	4.11	4.16	4.13	4.05	3.75	4.15	4.01	4.06	3.97	4.01	3.91	4.03	4.48	4.43
605	機能材料工学科	103	4.21	4.29	4.20	4.39	4.35	4.16	4.03	4.33	4.22	4.17	4.17	4.05	4.21	4.21	4.56	4.21
606	建設工学科	62	4.29	4.31	4.32	4.44	4.23	4.32	4.05	4.24	4.29	4.29	4.37	4.08	4.33	4.27	3.35	4.10
607	環境共生学科	54	4.37	4.41	4.30	4.42	4.39	4.39	4.52	4.54	4.35	4.31	4.46	4.46	4.41	4.41	4.04	4.48
平均値			4.20	4.20	4.16	4.33	4.20	4.17	4.02	4.28	4.10	4.14	4.15	4.07	4.14	4.17	4.15	4.28

2012 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均	14	15
601	機械工学科	80	4.14	4.09	4.27	4.38	4.11	4.10	4.18	4.40	4.00	3.93	4.20	4.25	4.21	4.17	4.18	4.04
602	電気電子システム工学科	9	3.56	3.33	3.78	4.33	3.89	4.00	4.00	4.00	3.89	4.11	4.22	3.89	4.00	3.92	4.56	4.33
603	情報システム工学科																	
604	応用化学科	122	4.34	4.43	4.32	4.57	4.43	4.34	3.86	4.36	4.36	4.45	4.34	4.24	4.37	4.34	4.28	4.44
605	機能材料工学科	106	4.21	4.24	4.22	4.41	4.35	4.18	3.90	4.26	4.26	4.19	4.18	3.73	4.18	4.18	4.60	4.20
606	建設工学科																	
607	環境共生学科																	
平均値			4.06	4.02	4.15	4.42	4.20	4.16	3.98	4.26	4.13	4.17	4.23	4.03	4.19	4.15	4.40	4.25

表8 2013年度 授業評価結果(実験)

2013 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均	14	15
601	機械工学科	146	4.29	4.36	4.32	4.47	4.34	4.24	4.24	4.50	4.26	4.31	4.37	4.37	4.40	4.34	4.05	4.39
602	電気電子システム工学科																	
603	情報システム工学科																	
604	応用化学科	127	4.26	4.30	4.31	4.50	4.06	4.14	4.00	4.35	4.28	4.20	4.19	4.21	4.24	4.23	4.43	4.35
605	機能材料工学科	94	4.30	4.27	4.24	4.40	4.41	4.30	4.03	4.32	4.27	4.27	4.11	3.93	4.17	4.23	4.62	4.23
606	建設工学科	71	4.38	4.41	4.44	4.51	4.41	4.38	4.20	4.37	4.41	4.37	4.39	4.32	4.41	4.38	3.87	4.49
607	環境共生学科	51	4.29	4.35	4.25	4.43	4.25	4.12	4.31	4.41	4.12	4.31	4.43	4.18	4.22	4.28	4.18	4.49
平均値			4.31	4.34	4.31	4.46	4.30	4.24	4.16	4.39	4.27	4.29	4.30	4.20	4.29	4.30	4.23	4.39

2013 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値															
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均	14	15
601	機械工学科	109	4.17	3.93	3.97	4.26	3.89	3.87	3.99	4.37	3.99	4.05	4.09	4.10	4.04	4.06	3.92	4.21
602	電気電子システム工学科	164	4.41	4.36	4.37	4.56	4.51	4.38	4.29	4.53	4.41	4.38	4.33	4.26	4.40	4.40	4.63	4.51
603	情報システム工学科																	
604	応用化学科																	
605	機能材料工学科	102	4.39	4.41	4.42	4.59	4.49	4.43	4.21	4.40	4.32	4.44	4.37	4.08	4.44	4.38	4.50	4.40
606	建設工学科																	
607	環境共生学科	21	4.19	4.05	4.00	4.10	4.24	4.24	4.00	4.05	4.00	4.10	3.95	3.86	4.00	4.06	4.33	4.52
平均値			4.29	4.18	4.19	4.38	4.28	4.23	4.12	4.34	4.18	4.24	4.18	4.07	4.22	4.22	4.35	4.41

表9 2014年度 授業評価結果(実験)

2014 前期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値														
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	13	14
601	機械工学科	143	4.02	3.97	3.99	3.97	4.23	4.05	4.20	3.89	3.97	3.93	3.99	3.99	4.02	4.60	4.39
602	電気電子システム工学科	13	4.46	4.38	4.23	4.23	4.62	4.38	4.54	4.15	4.31	4.62	4.31	4.38	4.38	4.85	4.67
603	情報システム工学科																
604	応用化学科	135	4.37	4.32	4.32	4.28	4.53	3.99	4.44	4.41	4.33	4.29	4.33	4.31	4.33	4.80	4.57
605	機能材料工学科	95	4.23	4.19	4.25	4.18	4.37	3.89	4.22	4.19	4.21	4.17	3.91	4.09	4.16	4.80	4.40
606	建設工学科	56	4.36	4.34	4.48	4.38	4.52	4.38	4.39	4.30	4.32	4.34	4.13	4.35	4.36	4.32	4.39
607	環境共生学科	32	3.97	3.97	3.94	4.00	4.03	4.00	4.19	3.78	3.94	3.81	3.59	4.00	3.93	4.31	4.25
平均値			4.23	4.20	4.20	4.17	4.38	4.12	4.33	4.12	4.18	4.19	4.04	4.19	4.20	4.61	4.44

2014 後期

T:工学部		回答者数	質問項目別の各評定平均値														
CD	中分類名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	13	14
601	機械工学科	108	4.11	3.97	3.87	3.95	4.37	4.02	4.41	3.61	3.87	4.07	4.12	3.86	4.02	4.64	4.35
602	電気電子システム工学科	154	4.44	4.45	4.49	4.45	4.64	4.42	4.56	4.37	4.45	4.45	4.27	4.40	4.45	4.61	4.62
603	情報システム工学科																
604	応用化学科	121	4.40	4.49	4.55	4.52	4.54	4.12	4.46	4.52	4.53	4.58	4.40	4.53	4.47	4.51	4.58
605	機能材料工学科	97	4.32	4.28	4.30	4.35	4.38	3.93	4.32	4.21	4.24	4.24	4.18	4.20	4.24	4.62	4.35
606	建設工学科																
607	環境共生学科	24	4.33	4.38	4.58	4.42	4.50	4.50	4.54	4.33	4.42	4.17	4.29	4.42	4.41	4.92	4.50
平均値			4.32	4.31	4.36	4.34	4.48	4.20	4.46	4.21	4.30	4.30	4.25	4.28	4.32	4.66	4.48

3. 授業に対する満足度の年次推移

表 10 は工学部全体における講義・演習および実験科目に対する学生の総合的満足度の年次推移を示したものである。この4年間を通じて、講義・演習科目については4.07～4.17、実験科目については4.05～4.29の数値で推移しており、学生の満足度をさらに高めるために、授業改善の努力が必要であると考えられる。

表10 授業に対する学生の総合的満足度の年次推移

	2011前期	2011後期	2012前期	2012後期	2013前期	2013後期	2014前期	2014後期
講義	4.07	4.09	4.11	4.13	4.14	4.17	4.11	4.16
実験	4.05	4.09	4.14	4.19	4.29	4.22	4.19	4.28

4. 学生の授業への取り組み

表 11～表 18 は各年度・セメスタにおける授業・演習科目に対する学生の取り組みの結果を示す。出席状況については4年間を通じて、4年次の出席率が低下する傾向である。これは前回の報告書で報告したとおり、就職活動や卒業研究に割く時間の割合が多くなるためではないかと推測される。質問項目が4年間のうち変更があったため一概には言えないが、自己学習および授業への集中度をみると、改善の傾向がみられるのではないかと推測される。

表 19～表 26 は各年度・セメスタにおける実験科目に対する学生の取り組みの結果を示す。回答者の多い2年次及び3年次生についてみると、質問項目が4年間のうち変更があったため一概には言えないが、自己学習時間については、実験に取り組む姿勢ともに改善の傾向が見られるのではないかと推測される。

表11 2011年度前期 (講義・演習用) 授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
13	授業にどれくらい出席しましたか。	A: ほぼ毎回				B: 3 / 4以上				C: 3 / 4未満			
		2,802	2,228	2,355	620	242	487	548	251	9	23	13	6
		91.78	81.37	80.76	70.70	7.93	17.79	18.79	28.62	0.29	0.84	0.45	0.68
14	授業を受けるに当たって、予習や復習(レポート作成を含む)をしましたか。	A: よくやった				B: 少しやった				C: 全くしない			
		1,618	1,315	1,315	398	1,190	1,196	1,380	407	244	222	210	70
		53.01	48.12	45.27	45.49	38.99	43.76	47.50	46.51	7.99	8.12	7.23	8.00
15	授業中、教員の話を理解するよう努力しましたか。	A: 毎回努力した				B: 普通に聴いた				C: 散漫に聴いた			
		1,615	1,157	1,160	350	1,335	1,448	1,600	488	91	117	114	32
		53.11	42.51	40.36	40.23	43.90	53.20	55.67	56.09	2.99	4.30	3.97	3.68

* 留年生及び科目等履修生は最終学年に含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

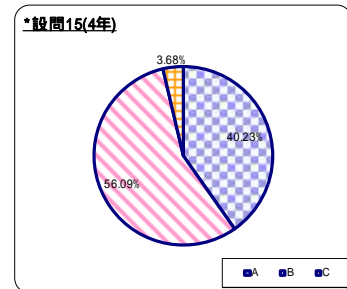
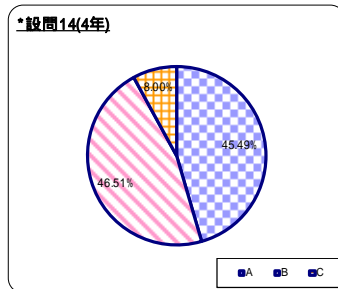
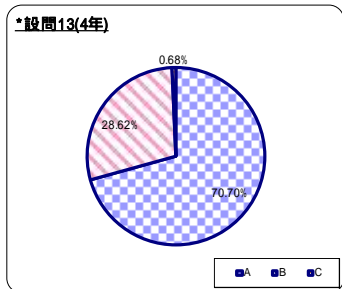
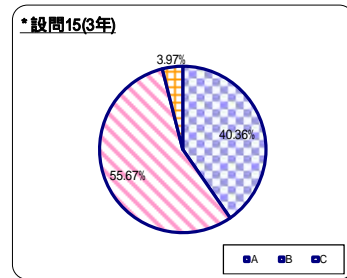
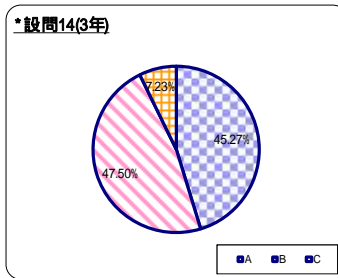
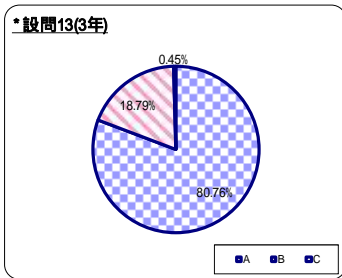
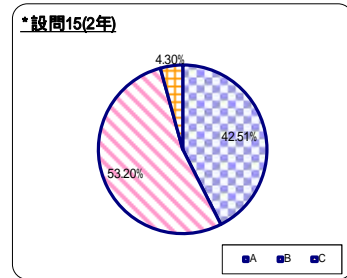
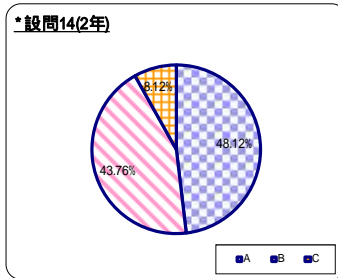
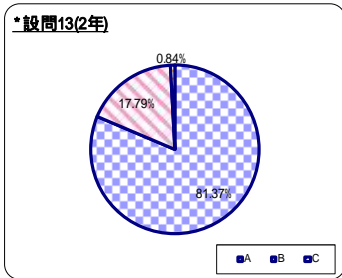
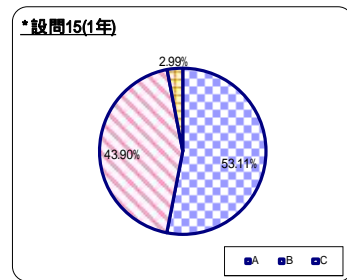
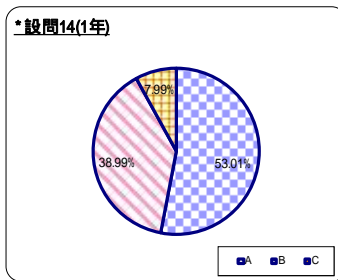
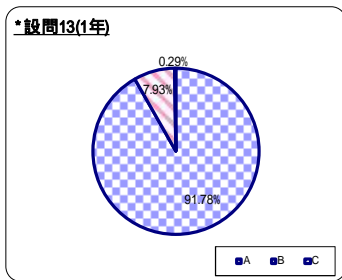


表12 2011年度後期 (講義・演習用) 授業評価調査集計結果 (大分類の学年別回答率・回答者数)

コード	T	大分類名	工学部
-----	---	------	-----

* 留年生及び科目等履修生は最終学年を含む。
 [備考] 回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
13	授業にどれくらい出席しましたか。	A: ほぼ全回				B: 3 / 4以上				C: 3 / 4未満			
		2,647	2,177	1,625	208	325	609	451	121	15	42	14	10
		88.62	76.98	77.75	61.36	10.88	21.53	21.58	35.69	0.50	1.49	0.67	2.95
14	授業を受けるに当たって、予習や復習(レポート作成を含む)をしましたか。	A: よくやった				B: 少しやった				C: 全くしない			
		1,730	1,158	1,000	157	1,096	1,388	936	163	162	279	154	19
		57.90	40.99	47.85	46.31	36.68	49.13	44.78	48.08	5.42	9.88	7.37	5.60
15	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A: 毎回努力した				B: 普通に聴いた				C: 散漫に聴いた			
		1,584	1,108	943	156	1,281	1,564	1,056	177	115	136	75	6
		53.15	39.46	45.47	46.02	42.99	55.70	50.92	52.21	3.86	4.84	3.62	1.77

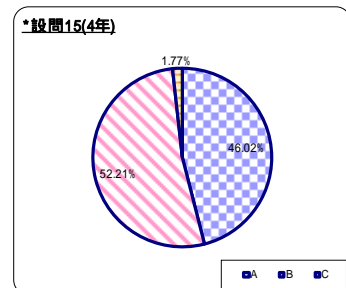
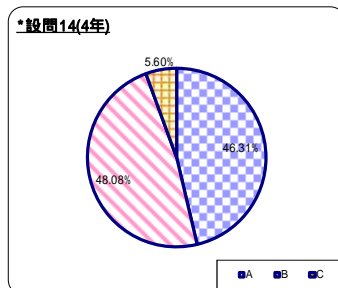
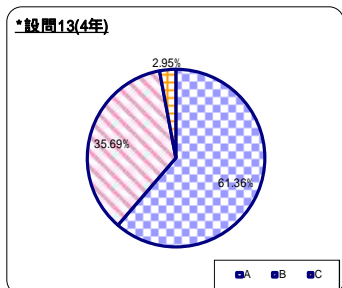
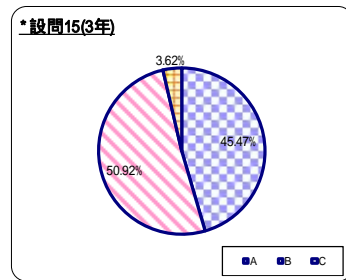
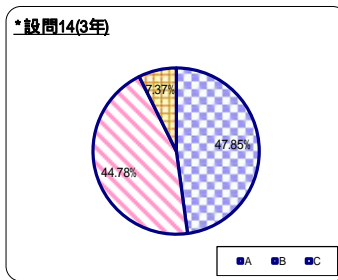
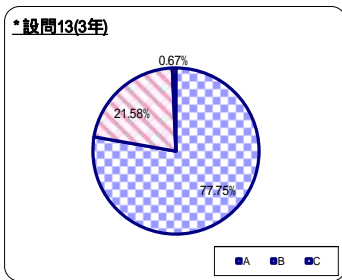
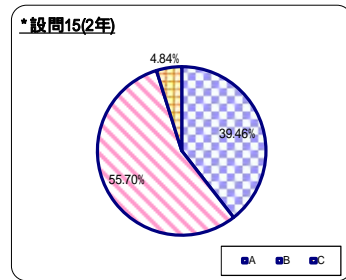
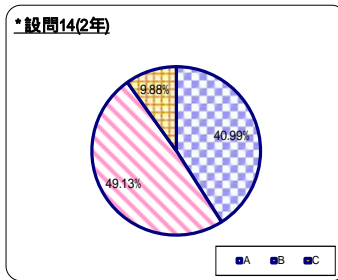
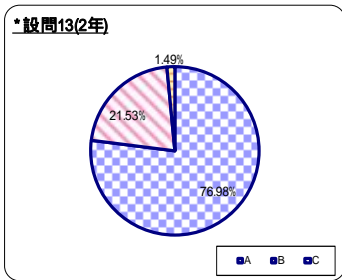
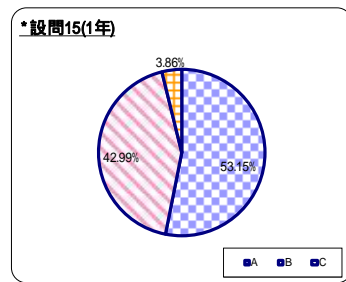
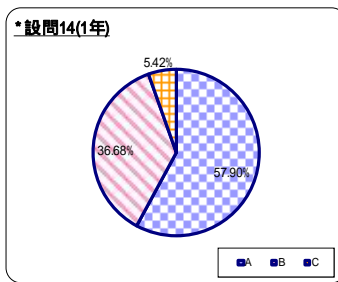
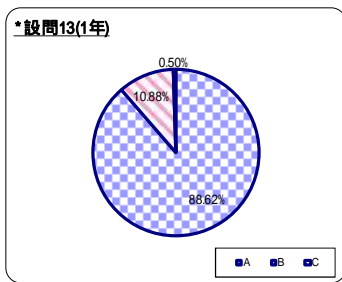


表13 2012年度前期 (講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率																			
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
13	授業にどれくらい出席しましたか。	A:ほぼ全回				B:3/4以上				C:3/4未満											
		2,434	2,490	2,284	502	311	487	537	284	14	29	37	11								
		88.22	82.83	79.92	62.99	11.27	16.20	18.79	35.63	0.51	0.96	1.29	1.38								
14	この授業1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間は平均何時間ですか。	A:1.5以上				B:1~1.5				C:0.5~1				D:0.5以下				E:0			
		546	626	503	168	512	608	503	151	910	963	1,012	285	567	541	674	155	247	282	178	41
		19.63	20.73	17.53	21.00	18.40	20.13	17.53	18.88	32.71	31.89	35.26	35.63	20.38	17.91	23.48	19.38	8.88	9.34	6.20	5.13
15	授業中、教員の話を理解するよう努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に聴いた				C:散漫に聴いた											
		1,413	1,432	1,244	291	1,250	1,414	1,511	482	100	138	72	19								
		51.14	47.99	44.00	36.74	45.24	47.39	53.45	60.86	3.62	4.62	2.55	2.40								

*留年生及び科目等履修生は最終学年を含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っていません。

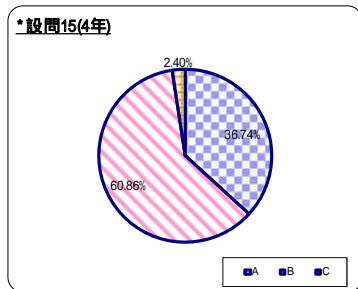
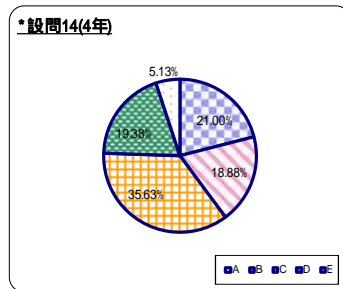
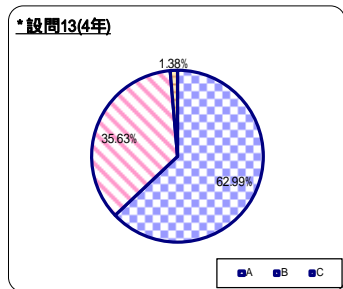
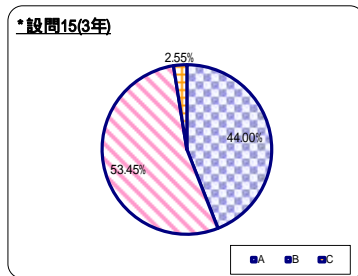
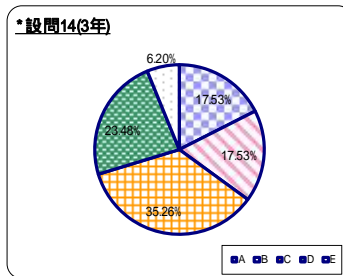
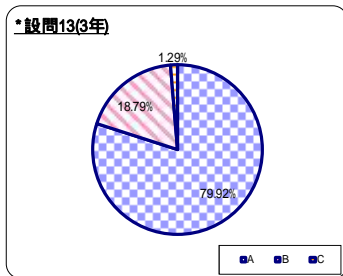
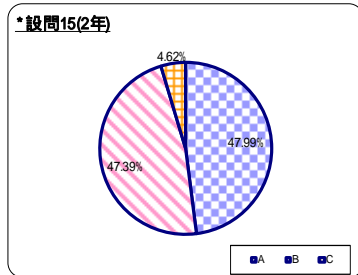
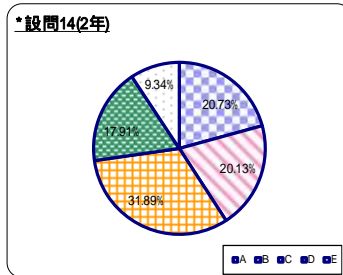
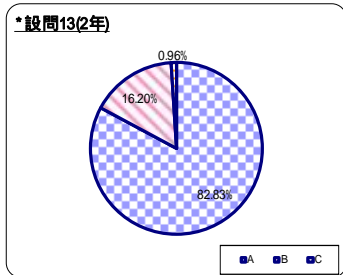
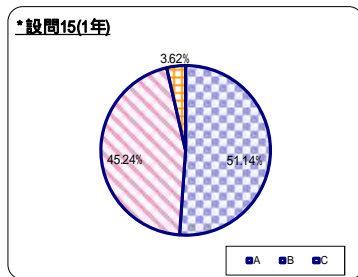
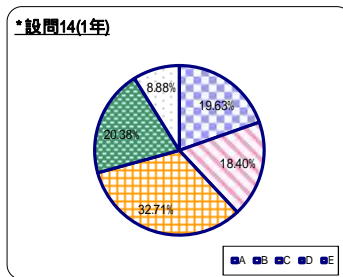
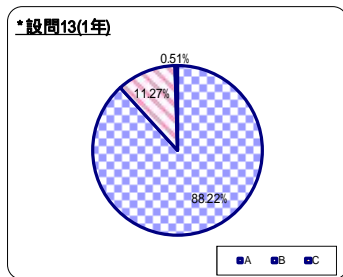


表14 2012年度後期 (講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

コード	T	大分類名	工学部
-----	---	------	-----

* 留年生及び科目等履修生は最終学年を含む。
 [備考] 回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っていません。

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率																			
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
13	授業にどれくらい出席しましたか。	A: ほぼ全回				B: 3 / 4以上				C: 3 / 4未満											
		2,474	2,347	1,677	188	327	504	396	97	26	19	21	10								
		87.51	81.78	80.09	63.73	11.57	17.56	18.91	32.88	0.92	0.66	1.00	3.39								
14	この授業1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間は平均何時間ですか。	A: 1.5以上				B: 1 ~ 1.5				C: 0.5 ~ 1				D: 0.5以下				E: 0			
		601	522	510	59	574	477	350	61	906	1,022	697	108	551	613	397	54	220	243	146	10.00
		21.07	18.14	24.29	20.21	20.13	16.58	16.67	20.89	31.77	35.52	33.19	36.99	19.32	21.31	18.90	18.49	7.71	8.45	6.95	3.42
15	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A: 毎回努力した				B: 普通に聴いた				C: 散漫に聴いた											
		1,321	1,376	939	156	1,367	1,366	1,085	130	111	101	46	8								
		47.20	48.40	45.36	53.06	48.84	48.05	52.42	44.22	3.97	3.55	2.22	2.72								

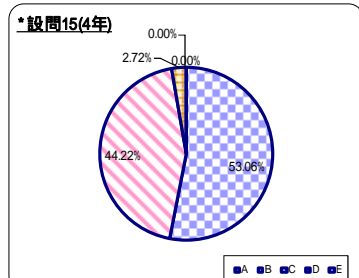
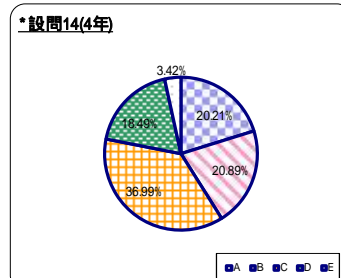
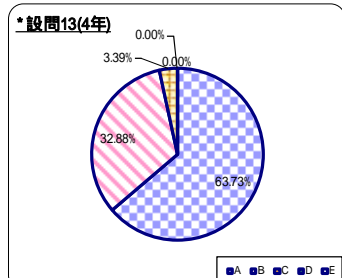
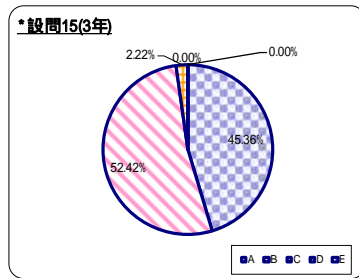
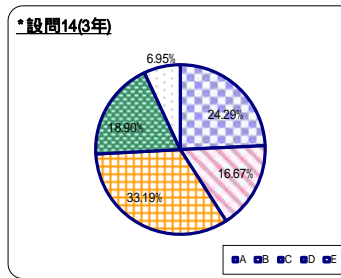
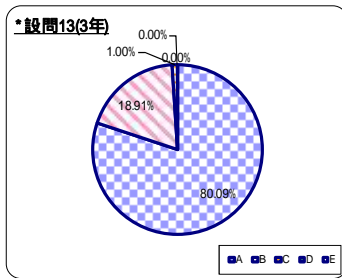
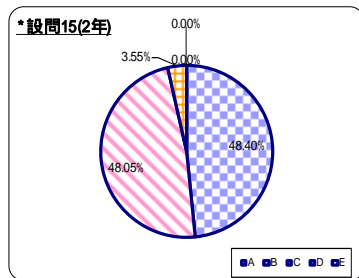
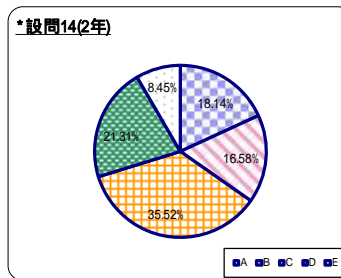
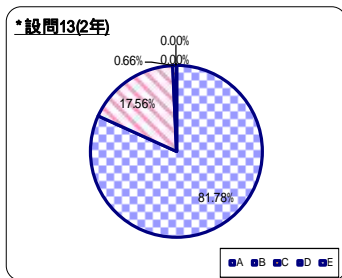
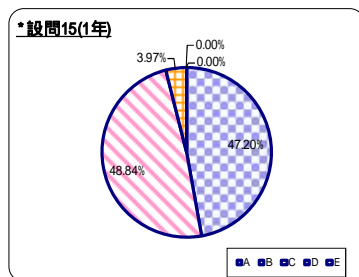
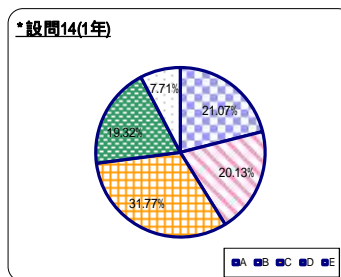
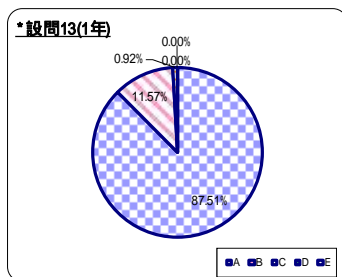


表15 2013年度前期 (講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率																			
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
13	授業にどれくらい出席しましたか。	A:ほぼ全回				B:3/4以上				C:3/4未満											
		2,356	2,385	2,565	524	410	478	512	205	25	34	16	13								
		84.41	82.33	82.93	70.62	14.69	16.50	16.55	27.63	0.90	1.17	0.52	1.75								
14	この授業1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間は平均何時間ですか。	A:3以上				B:2~3				C:1~2				D:1以下				E:0			
		243	322	485	134	329	298	326	61	979	1,010	1,060	231	969	1,023	1,053	266	281	256	178	52
		8.68	11.07	15.64	18.01	11.75	10.24	10.51	8.20	34.95	34.72	34.17	31.05	34.59	35.17	33.95	35.75	10.03	8.80	5.74	6.99
15	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に聴いた				C:散漫に聴いた											
		1,279	1,262	1,475	309	1,413	1,469	1,519	404	79	123	75	24								
		46.16	44.22	48.06	41.93	50.99	51.47	49.49	54.82	2.85	4.31	2.44	3.26								

*留年生及び科目等履修生は最終学年に含む。
 [備考]回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

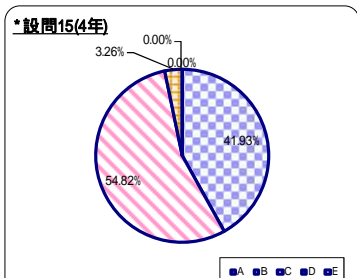
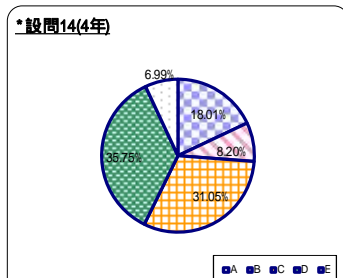
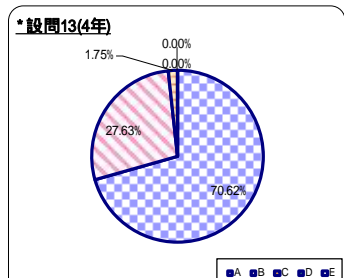
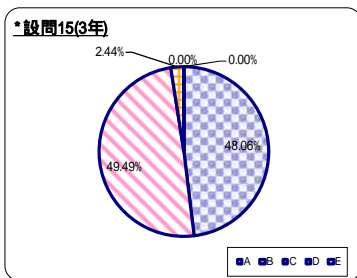
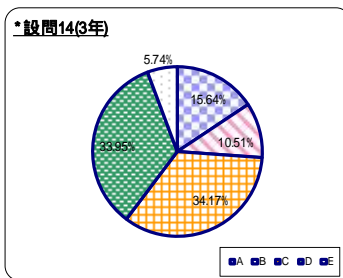
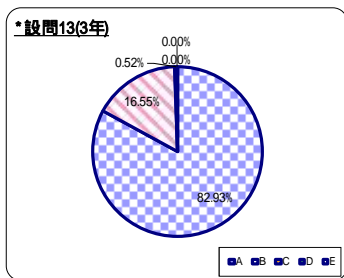
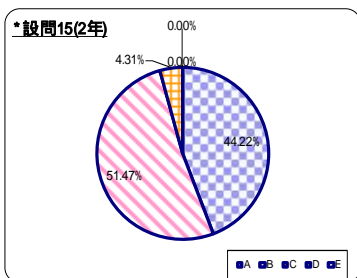
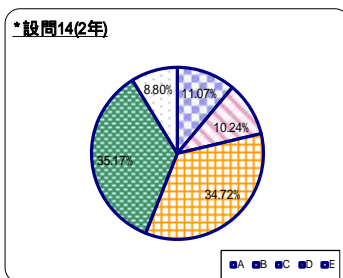
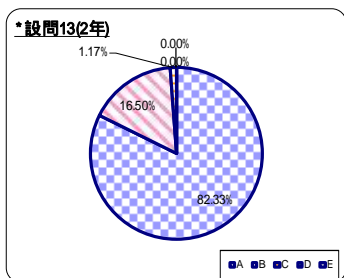
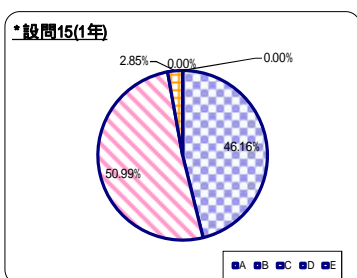
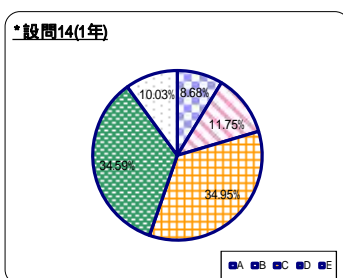
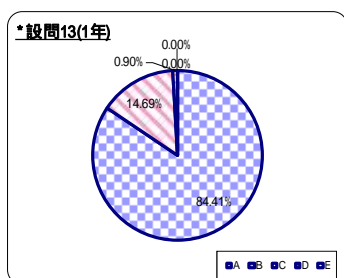


表16 2013年度後期 (講義・演習用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率																			
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
13	授業にどれくらい出席しましたか。	A:ほぼ全回				B:3/4以上				C:3/4未満											
		2,280	2,293	1,740	175	440	510	444	104	24	25	10	10								
		83.09	81.08	79.31	60.55	16.03	18.03	20.24	35.99	0.87	0.88	0.46	3.46								
14	この授業1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間は平均何時間ですか。	A:3時間以上				B:2~3時間未満				C:1~2時間未満				D:1時間未満				E:0時間			
		279	321	454	38	295	245	252	33	931	836	632	76	1,014	1,119	729	120	240	313	132	25
		10.11	11.33	20.65	13.01	10.69	8.65	11.46	11.30	33.74	29.50	28.74	26.03	36.75	39.48	33.15	41.10	8.70	11.04	6.00	8.56
15	授業中、教員の話しを理解するよう努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に聴いた				C:散漫に聴いた											
		1,258	1,230	1,099	122	1,368	1,479	1,013	163	83	97	56	3								
		46.44	43.83	50.69	42.36	50.50	52.71	46.73	56.60	3.06	3.46	2.58	1.04								

*留年生及び科目等履修生は最終学年に含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っています。

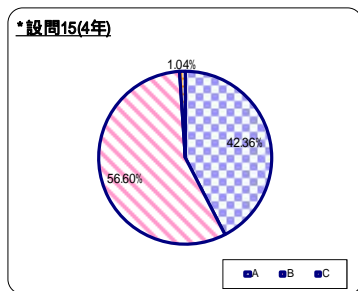
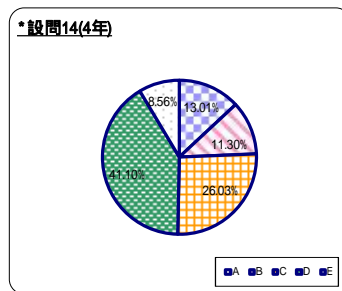
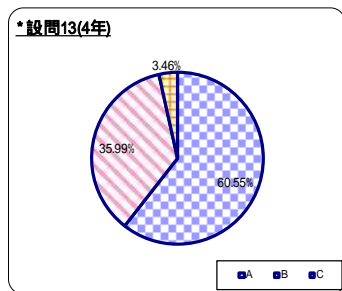
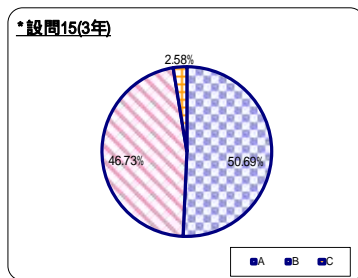
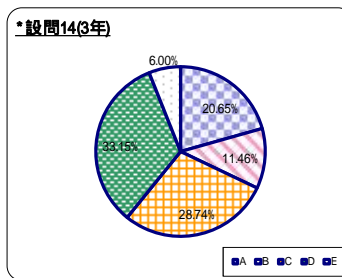
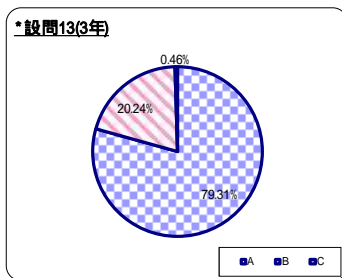
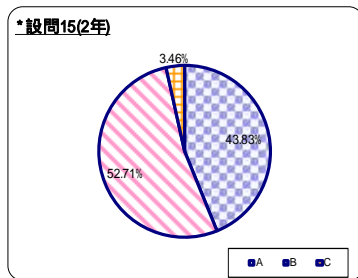
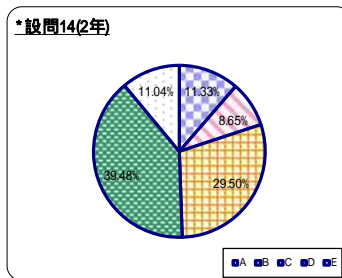
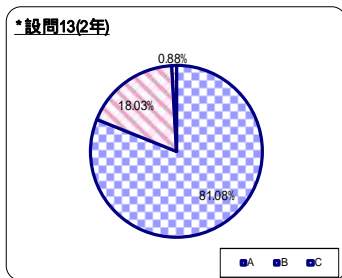
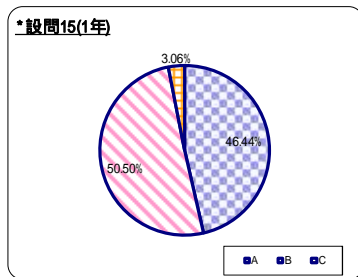
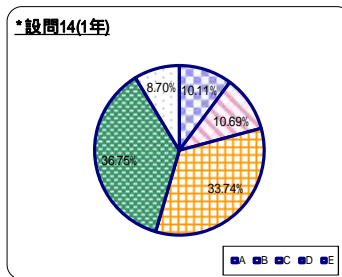
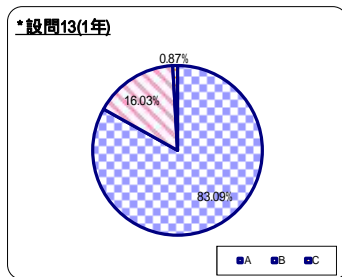


表17 2014年度前期 (講義・演習用) 授業評価調査集計結果 (大分類の学年別回答率・回答者数)

コード	T	大分類名	工学部
-----	---	------	-----

* 留年生及び科目等履修生は最終学年に含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入ってあります。

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率																			
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
12	授業にどれくらい出席しましたか。	A: ほぼ全回				B: 3 / 4以上				C: 3 / 4未満											
		2,424	2,203	2,321	480	406	627	499	207	15	27	21	16								
		85.20	77.11	81.70	68.28	14.27	21.95	17.56	29.45	0.53	0.95	0.74	2.28								
13	この授業1回当たり事前準備・事後展開学修に費やした時間は平均何時間ですか。	A: 4時間以上				B: 2~4時間未満				C: 1~2時間未満				D: 1時間未満				E: 0時間			
		201	129	269	68	329	279	283	61	890	1,011	874	214	948	1,123	1,178	279	481	323	240	81
		7.06	4.50	9.46	9.67	11.55	9.74	9.95	8.68	31.24	35.29	30.73	30.44	33.27	39.20	41.42	39.69	16.88	11.27	8.44	11.52
14	授業中、教員の話を理解するよう努力しましたか。	A: 毎回努力した				B: 普通に聴いた				C: 散漫に聴いた											
		1,191	1,076	1,261	214	1,555	1,622	1,448	444	75	113	84	37								
		42.22	38.28	45.15	30.79	55.12	57.70	51.84	63.88	2.66	4.02	3.01	5.32								

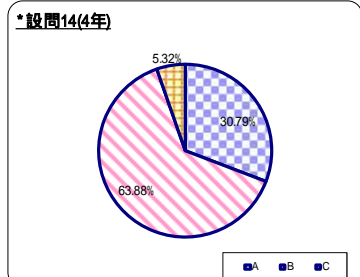
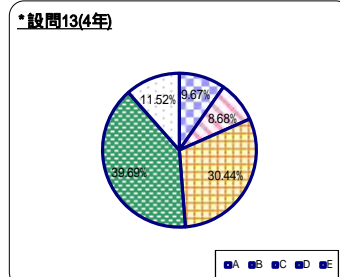
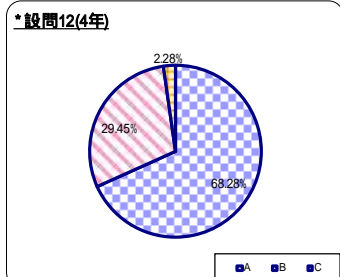
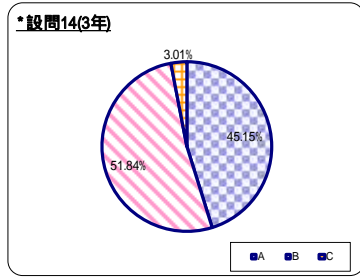
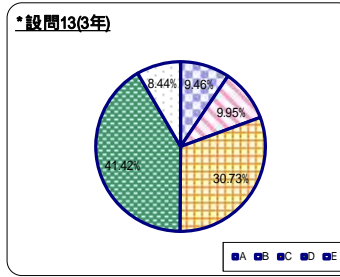
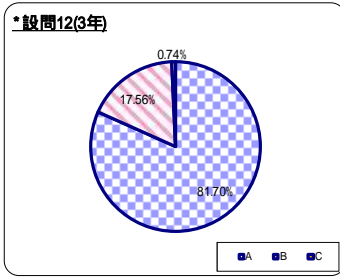
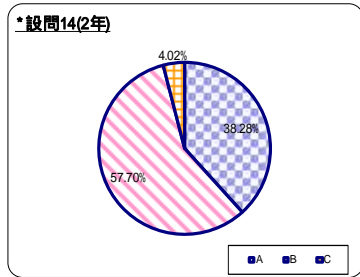
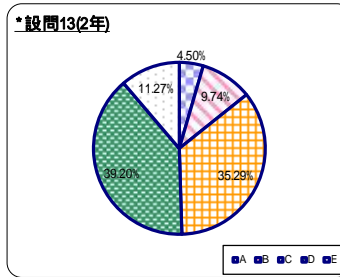
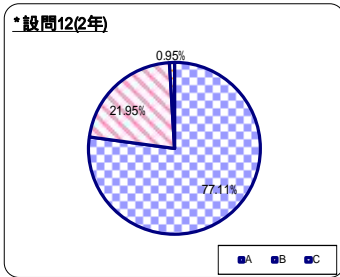
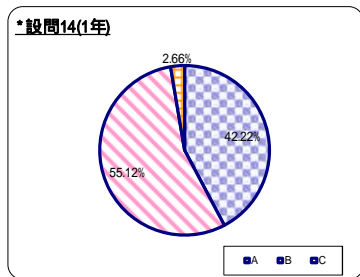
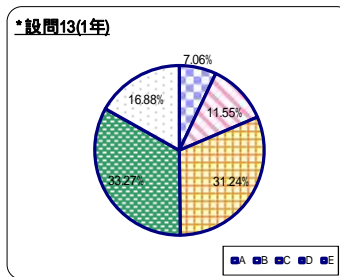
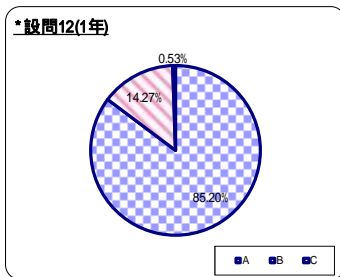


表18 2014年度後期 (講義・演習用) 授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

コード	T	大分類名	工学部
-----	---	------	-----

* 留年生及び科目等履修生は最終学年に含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入ってあります。

No.	評価項目	上段: 回答数 / 下段: 回答率																			
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
12	授業にどれくらい出席しましたか。	A: ほぼ全回				B: 3/4以上				C: 3/4未満											
		2,376	2,094	1,653	152	462	605	319	124	12	30	15	7								
		83.37	76.73	83.19	53.71	16.21	22.17	16.05	43.82	0.42	1.10	0.75	2.47								
13	この授業1回当たり事前準備・事後展開学修に費やした時間は平均何時間ですか。	A: 4時間以上				B: 2~4時間未満				C: 1~2時間未満				D: 1時間未満				E: 0時間			
		192	145	217	19	321	228	171	15	801	835	608	125	1,170	1,253	850	99	370	275	142	26
		6.73	5.30	10.92	6.69	11.25	8.33	8.60	5.28	28.07	30.52	30.58	44.01	41.00	45.80	42.76	34.86	12.96	10.05	7.14	9.15
14	授業中、教員の話を理解するよう努力しましたか。	A: 毎回努力した				B: 普通に聴いた				C: 散漫に聴いた											
		1,185	1,110	914	107	1,557	1,468	1,009	161	64	105	38	8								
		42.23	41.37	46.61	38.77	55.49	54.71	51.45	58.33	2.28	3.91	1.94	2.90								

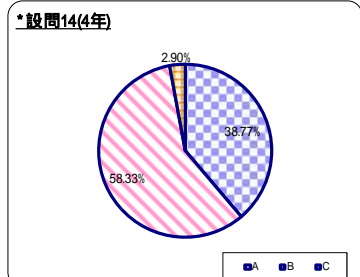
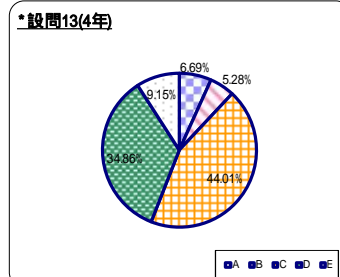
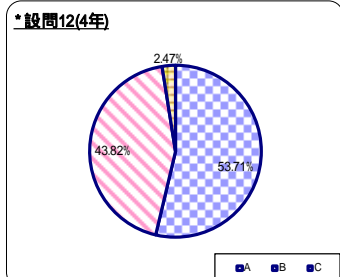
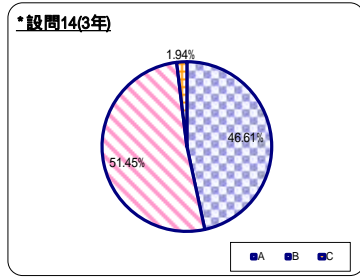
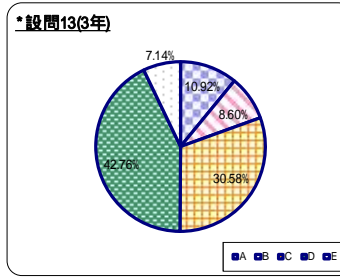
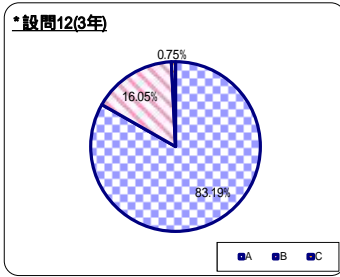
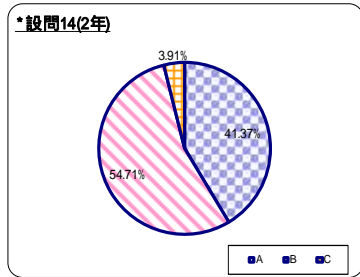
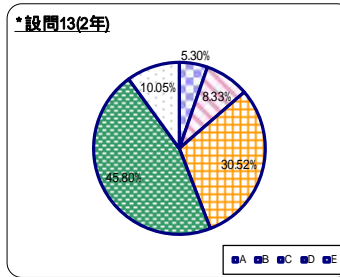
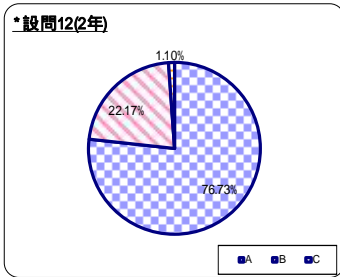
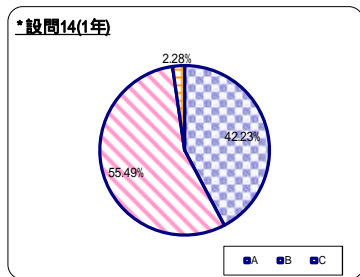
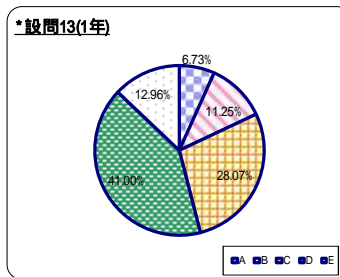
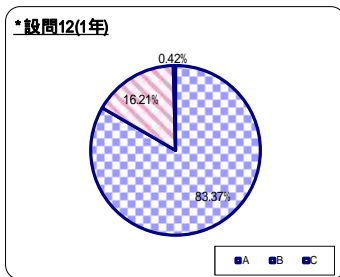


表19 2011年度前期 (実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

コード	T	大分類名	工学部
-----	---	------	-----

*留年生及び科目等履修生は最終学年に含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
14	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか。	A: 6時間以上				B: 2～6時間未満				C: 2時間未満			
		2	129	228	4	2	75	118	4	0	8	6	0
		50.00	60.85	64.77	50.00	50.00	35.38	33.52	50.00	0.00	3.77	1.70	0.00
15	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか。	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
		3	142	199	3	1	69	148	5	0	0	4	0
		75.00	67.30	56.70	37.50	25.00	32.70	42.17	62.50	0.00	0.00	1.14	0.00

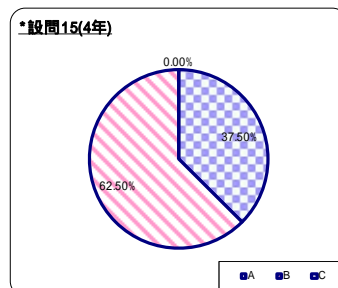
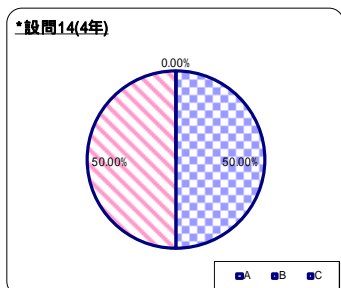
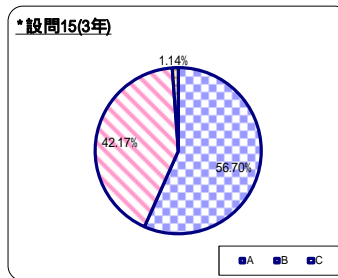
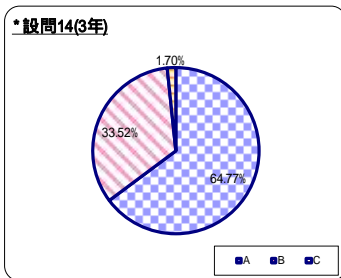
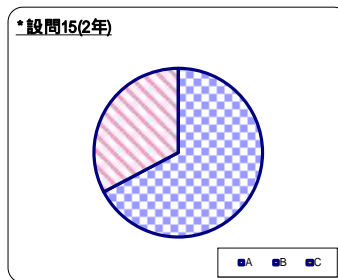
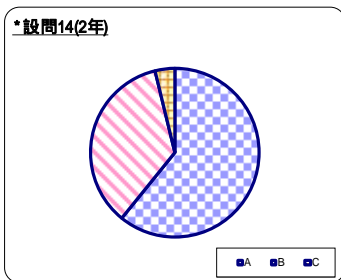
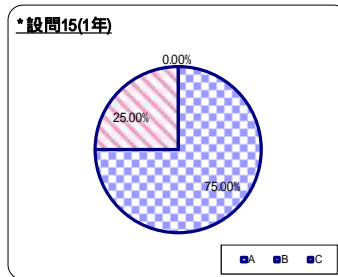
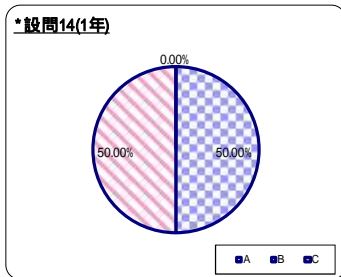


表20 2011年度後期 (実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

コード	T	大分類名	工学部
-----	---	------	-----

*留年生及び科目等履修生は最終学年に含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
14	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか。	A:6時間以上				B:2~6時間未満				C:2時間未満			
		202	134	8			57	55	3			8	6
15	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に実験した				C:散漫に実験した			
			156	132	7		107	59	5			2	3
		58.87	68.04	58.33		40.38	30.41	41.67			0.75	1.55	0.00

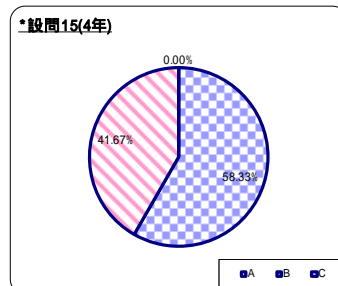
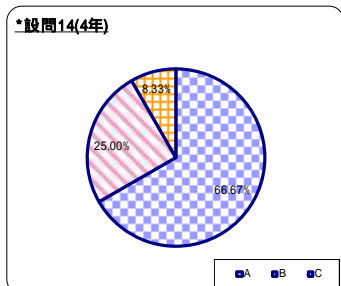
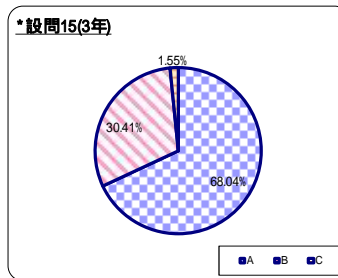
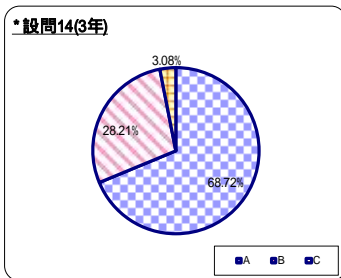
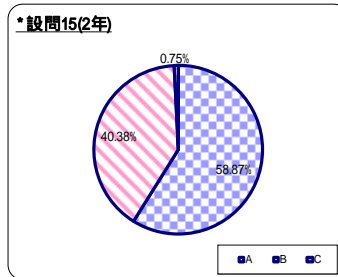
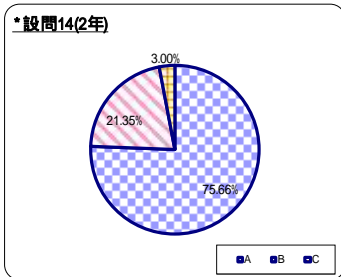
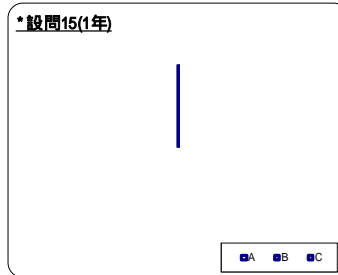
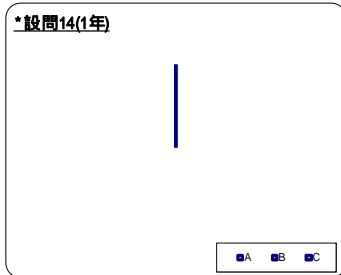


表21 2012年度前期 (実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

コード	T	大分類名	工学部
-----	---	------	-----

*留年生及び科目等履修生は最終学年に含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
14	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか。	A: 6時間以上				B: 2～6時間未満				C: 2時間未満			
		1	109	240	6	1	23	139	3	0	3	19	3
		50.00	80.74	60.30	50.00	50.00	17.04	34.92	25.00	0.00	2.22	4.77	25.00
15	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか。	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
		1	91	263	6	1	44	130	5	0	0	3	1
		50.00	67.41	66.41	50.00	50.00	32.59	32.83	41.67	0.00	0.00	0.76	8.33

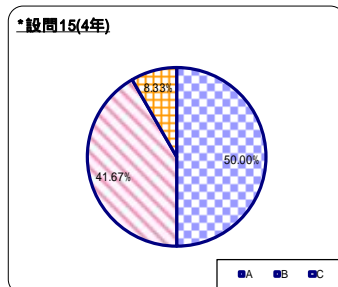
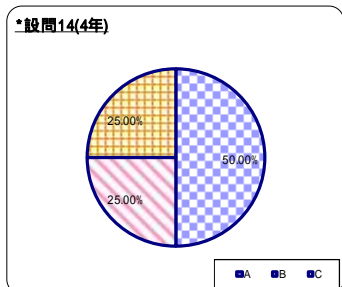
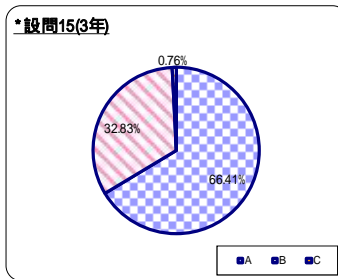
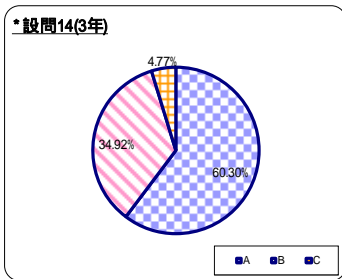
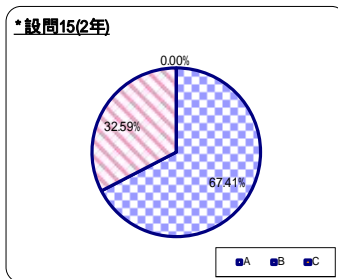
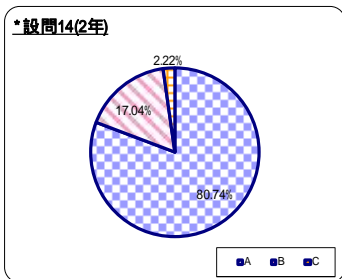
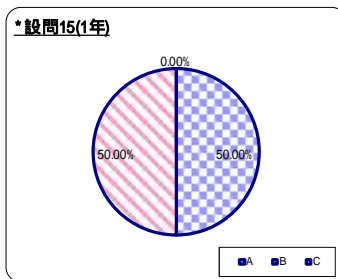
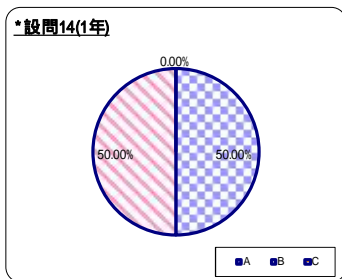


表22 2012年度後期

(実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

コード	T	大分類名	工学部
-----	---	------	-----

*留年生及び科目等履修生は最終学年に含む。

【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
14	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか。	A: 6時間以上				B: 2~6時間未満				C: 2時間未満			
		1	139	76	6	0	44	31	2	0	6	4	1
		100.00	73.54	68.47	66.67	0.00	23.28	27.93	22.22	0.00	3.17	3.60	11.11
15	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか。	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
		1	105	82	7	0	82	29	2	0	1	0	0
		100.00	55.85	73.87	77.78	0.00	43.62	26.13	22.22	0.00	0.53	0.00	0.00

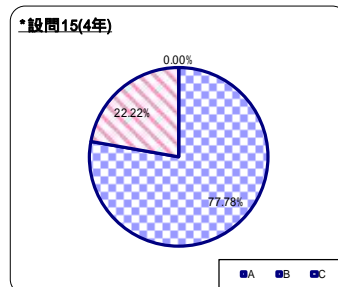
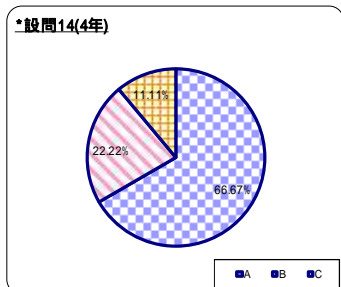
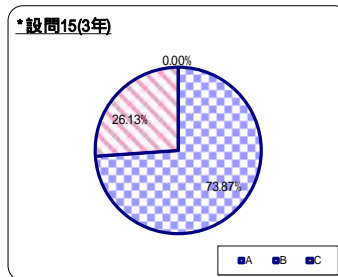
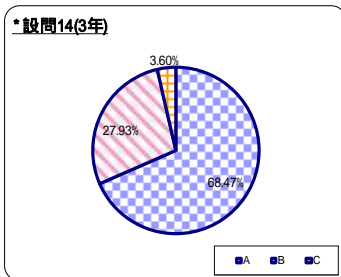
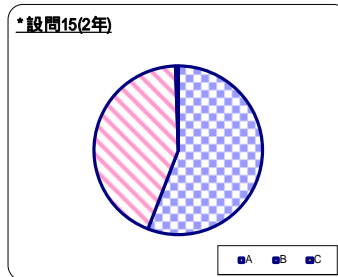
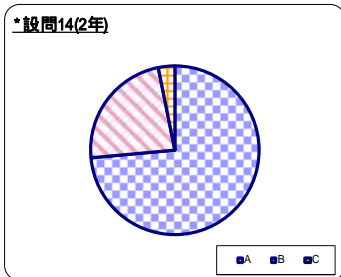
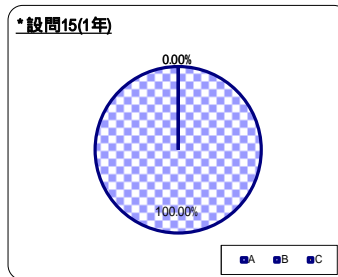
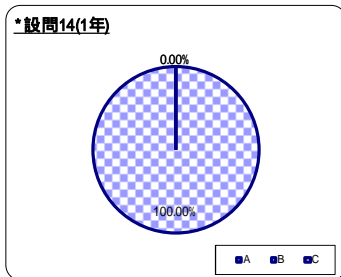


表23 2013年度前期 (実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
14	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか。	A: 6時間以上				B: 2～6時間未満				C: 2時間未満			
		3	105	204	6	0	17	112	6	0	1	18	0
		100.00	85.37	61.08	50.00	0.00	13.82	33.53	50.00	0.00	0.81	5.39	0.00
15	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか。	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した			
		2	90	230	6	1	33	98	6	0	0	3	0
		66.67	73.17	69.49	50.00	33.33	26.83	29.61	50.00	0.00	0.00	0.91	0.00

*留年生及び科目等履修生は最終学年に含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

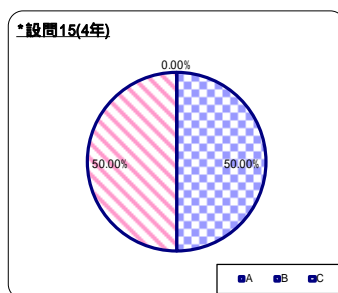
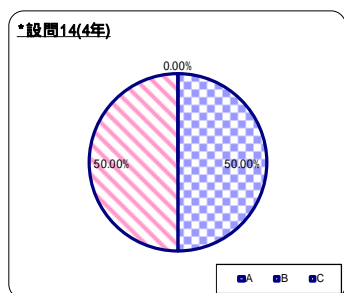
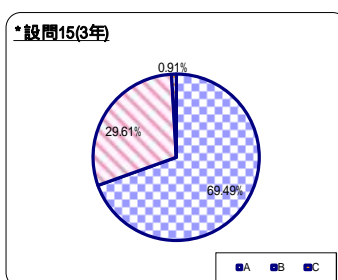
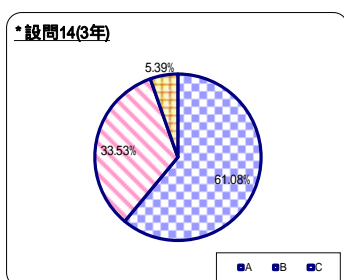
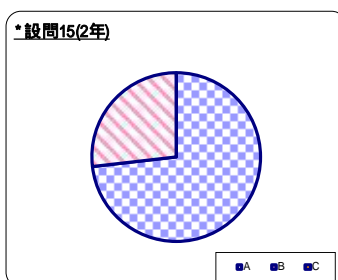
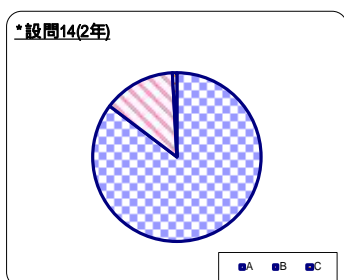
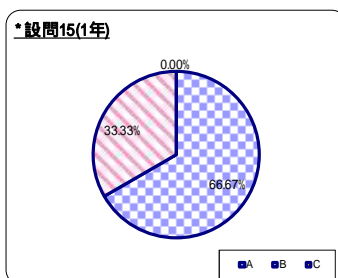
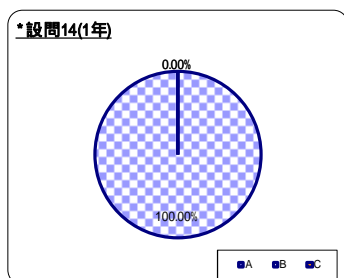


表24 2013年度後期 (実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

コード	T	大分類名	工学部
-----	---	------	-----

*留年生及び科目等履修生は最終学年に含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率											
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
14	この実験1回当たり、予習・復習・レポートに費やした時間はどのくらいですか。	A:6時間以上				B:2~6時間未満				C:2時間未満			
		3	161	109	6	19	63	36	1	7	4	5	0
		10.34	70.61	72.67	85.71	65.52	27.63	24.00	14.29	24.14	1.75	3.33	0.00
15	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に実験した				C:散漫に実験した			
		19	150	113	5	10	76	37	2	0	0	0	0
		65.52	66.37	75.33	71.43	34.48	33.63	24.67	28.57	0.00	0.00	0.00	0.00

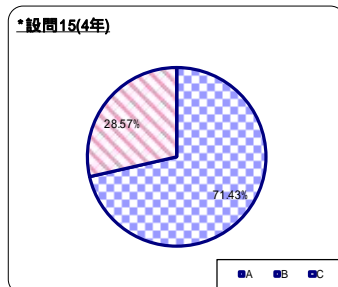
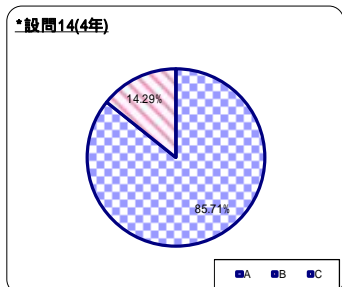
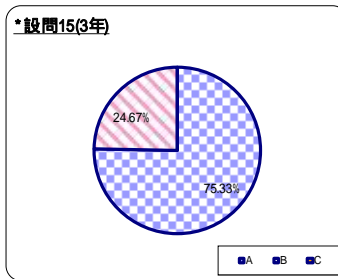
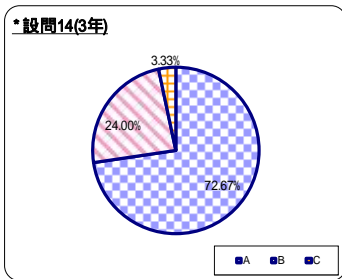
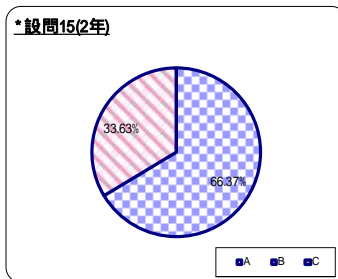
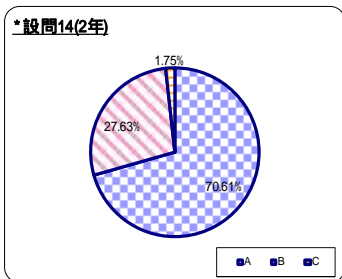
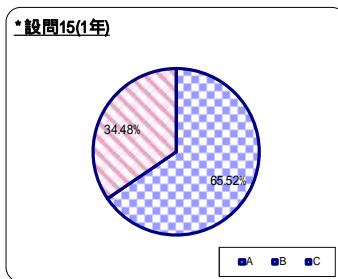
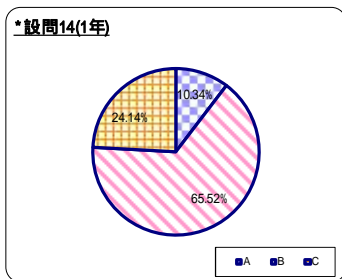


表25 2014年度前期 (実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

コード	T	大分類名	工学部
-----	---	------	-----

*留年生及び科目等履修生は最終学年を含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率																			
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
13	この実験の事前準備学修・レポート作成に費やした時間は、週あたり何時間くらいですか。	A:4時間以上				B:2~4時間未満				C:1~2時間未満				D:1時間未満				E:0時間			
		1	107	237	8	0	12	56	0	0	4	21	0	0	1	10	0	0	1	2	0
		100.00	85.60	72.70	100.00	0.00	9.60	17.18	0.00	0.00	3.20	6.44	0.00	0.00	0.80	3.07	0.00	0.00	0.80	0.61	0.00
14	実験に集中できませんでしたか、実験の意味を考えながら行うように努力しましたか。	A:毎回努力した				B:普通に実験した				C:散漫に実験した											
		0	90	235	5	1	34	86	3	0	0	1	0								
		0.00	72.58	72.98	62.50	100.00	27.42	26.71	37.50	0.00	0.00	0.31	0.00								

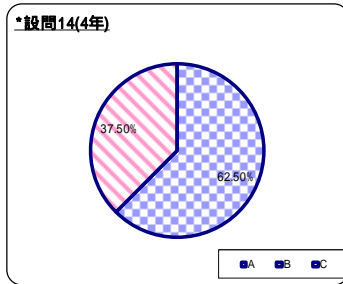
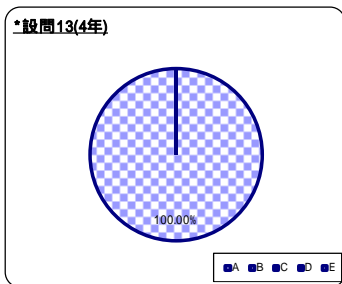
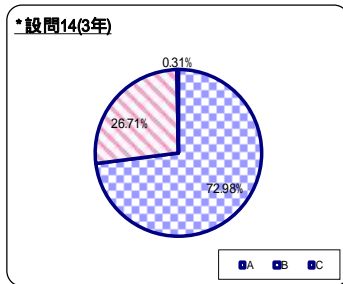
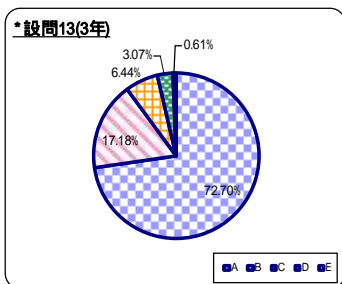
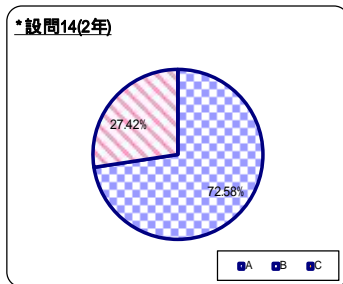
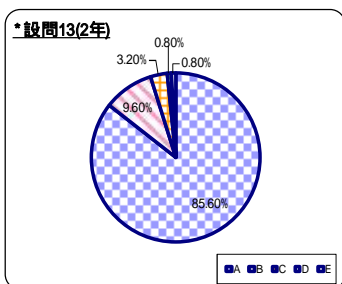
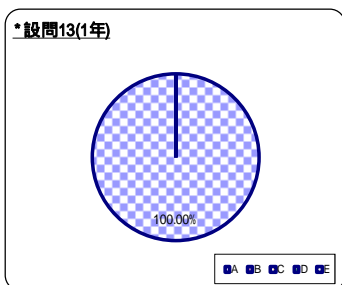
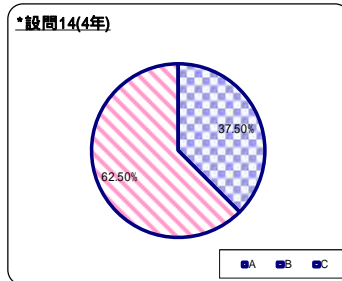
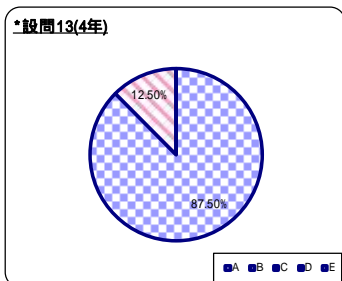
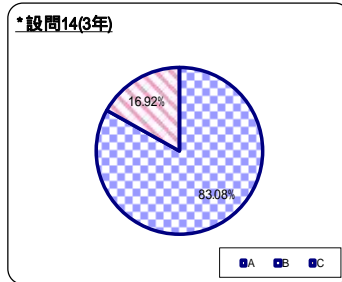
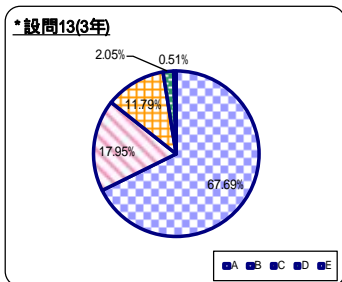
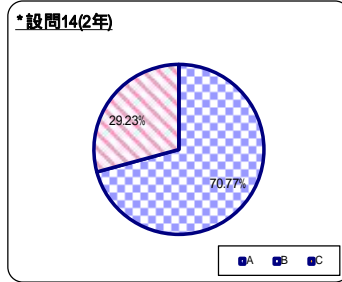
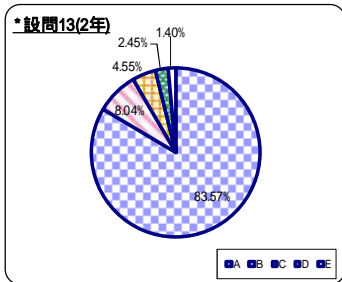
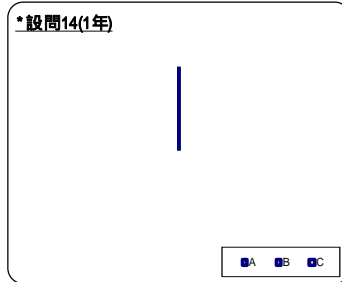
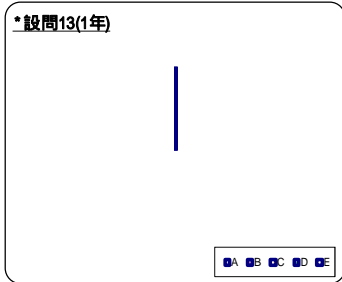


表26 2014年度後期 (実験用)授業評価調査集計結果(大分類の学年別回答率・回答者数)

コード	T	大分類名	工学部
-----	---	------	-----

*留年生及び科目等履修生は最終学年を含む。
 【備考】回答がない学年は、集計対象外のためセルに色が入っております。

No.	評価項目	上段:回答数 / 下段:回答率																			
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年				
13	この実験の事前準備学修・レポート作成に費やした時間は、週あたり何時間くらいですか。	A: 4時間以上				B: 2~4時間未満				C: 1~2時間未満				D: 1時間未満				E: 0時間			
			239	132	7		23	35	1		13	23	0		7	4	0		4	1	0
			83.57	67.69	87.50		8.04	17.95	12.50		4.55	11.79	0.00		2.45	2.05	0.00		1.40	0.51	0.00
14	実験に集中できませんでしたか、実験の意味を考えながら行うように努力しましたか。	A: 毎回努力した				B: 普通に実験した				C: 散漫に実験した											
			201	162	3		83	33	5		0	0	0								
			70.77	83.08	37.50		29.23	16.92	62.50		0.00	0.00	0.00								



・ 授業評価のフィードバックの取り組み

学生による授業評価を授業の改善に反映させるために、以下のような取り組みを行っている。

(1) 授業評価結果の開示

2005 年度に、授業評価結果の教員向け開示を学科単位で実施することを FD 部会で決定し、現在すべての学科で授業評価結果が閲覧できるようにしている。

(2) 公開シンポジウムの開催

FD 部会は、教員の授業改善に資することを目的として、下記の公開 FD シンポジウムを 2011～2014 年度において開催してきた。(資料 5-1～5-4)

2011 年度 「コミュニケーション力と学力を考える」

2012 年度 「初年次教育を考える」

2013 年度 「授業における新しい I T 基盤の活用について」

2014 年度 「新しい T A の活用について」

(3) 教員相互の授業参観(オープンクラス)の実施

教員相互の授業参観(オープンクラス)は 2007 年度から実施しており、その目的は、他の教員の授業を参観することによって参考にできる点を自らの授業に取り入れること、他の教員に参観してもらい、自分の授業に対して率直な意見を受け入れることによって、授業の改善につなげることである。2011 年度からは非常勤講師の授業も含め、実験を除くすべての授業を参観対象としている。実施概要及びアンケート様式については資料 6-1～6-6 のとおりである。

(4) ベストレクチャー賞の設置

教員の授業改善への取り組みを奨励することを目的とし、2007 年度に定めた工学部・教員研修(FD)ガイドライン(資料 7-1)の「授業技能優秀者の表彰に関する指針」にもとづいて、優れた授業技能を有する教員に「ベストレクチャー賞」を授与している。受賞者の選考は「学生による授業評価」を考慮した選考基準の下に FD 部会が行い、工学部長に推薦している。(資料 7-2～7-4)

.おわりに

本報告書は、2011年度から2014年度までの工学部における「学生による授業評価」の結果及びその分析と評価をとりまとめたものである。4年間の結果等をとりまとめた報告書としては、2007年度から2010年度分をとりまとめた報告書に続き2回目の報告となる。

「 .教育改善への教員の取り組みと学生による授業評価」で述べたとおりとおり、今回の報告でも学生による授業評価が向上しているという結果となっており、調査・分析結果を活用し更なる教育改善につなげていただければ幸いである。

付録資料

1. 学生による授業評価調査用紙

資料 1-1

学生による授業評価調査用紙：講義・演習用

埼玉大学

担 教 員 当 名	講 番	科 目 名
義 号		



この調査は、学生の皆さんから授業に関する意見を聴いて、授業内容をよりよくするために行うものです。
成績評価には全く関係ありませんので、率直な意見を回答してください。

※あなたの在籍学年にマークしてください。
※留年生及び科目等履修生は最終年にマークしてください。

学 部 生	1年 ①	2年 ②	3年 ③	4年 ④	修 士	1年 ①	2年 ②
-------------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------

記入上の注意

- 必ずHBの黒鉛筆で、丁寧に塗りつぶすこと。
- 訂正する場合は、消しゴムできれいに消すこと。
- 用紙を汚したり、折り曲げないこと。

良い例  悪い例 

I 講義・演習評価等

分類	No.	評価項目	評価							
授 業 に つ い て	1	授業の到達目標・全体構成が、シラバスからよく理解できましたか。	←	理解できた					→	そうは言えない
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
	2	シラバスに記載された事前準備・事後展開学修について、当該学修の指示・解説等は適切でしたか。	←	適切だった					→	そうは言えない
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
	3	教材（教科書、プリント、板書、プロジェクタ画面など）の内容は、学修効果を上げるために適切なものになっていましたか。	←	適切なものになっていた					→	そうは言えない
			(A)	(B)	(C)	(D)	(E)			
	4	授業中に出された課題（レポート、演習問題、小テストなど）は、授業の主要な目標や目的とうまく合致していましたか。	←	合致した					→	そうは言えない
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
	5	授業は、あなたの思考力を養うため、あるいは専門知識を高めるうえで役立ちましたか。	←	役立った					→	そうは言えない
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
教 員 に つ い て	6	教員は、到達目標にあった内容の授業を行いましたか。	←	到達目標にあった授業を行った					→	そうは言えない
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
	7	教員は、授業に対して十分な熱意を持って講義していましたか。	←	熱意を持って講義をしていた					→	そうは言えない
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
	8	教員の話し方、板書の書き方、PCプロジェクタ、ビデオなどの機器の利用の仕方は、適切でしたか。	←	適切だった					→	そうは言えない
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
	9	教員は、授業を時間どおり行いましたか。	←	時間どおり行った					→	そうは言えない
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
	10	教員は、授業への学生の参加（質問、発言）を促し、あなたの質問に対して、あなたが分かるように答えましたか。	←	参加を促し、分かるように答えた					→	そうは言えない
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
授 業 全 体 に つ い て	11	授業は、上記の項目も含め総合的に判断して、満足できるものでしたか。	←	満足できる					→	そうは言えない
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
あ な た 自 身 に つ い て	12	授業にどれくらい出席しましたか。		ほぼ毎回		3/4以上				3/4未満
				(A)		(B)				(C)
	13	この授業1回当たり事前準備・事後展開学修に費やした時間は平均何時間ですか。		4時間以上		2~4時間未満		1~2時間未満		1時間未満
				(A)		(B)		(C)	(D)	(E)
	14	授業中、教員の話を理解するよう努力しましたか。		毎回努力した		普通に聴いた				散漫に聴いた
				(A)		(B)				(C)
	15	*予備欄	←							→
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
	16	*予備欄	←							→
				(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		

*予備欄は、各学部等独自の評価項目がある場合に使用

II 授業の改善に資するためのコメント

良い点	改善すべき点
.....
.....
.....

資料 1-2

学生による授業評価調査用紙：実験用

埼玉大学

担 教 員 当 名	講 番	科 目 名
	義 号	

この調査は、学生の皆さんから授業に関する意見を聴いて、授業内容をよりよくするために行うものです。
成績評価には全く関係ありませんので、率直な意見を回答してください。

※あなたの在籍学年にマークしてください。
※留年生及び科目等履修生は最終年にマークしてください。

学 部 生	1年 ①	2年 ②	3年 ③	4年 ④	修 士	1年 ①	2年 ②
-------------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------

記入上の注意

- 必ずHBの黒鉛筆で、丁寧に塗りつぶすこと。
- 訂正する場合は、消しゴムできれいに消すこと。
- 用紙を汚したり、折り曲げないこと。

I 実験評価等

分類	No.	評価項目	評価
実験について	1	実験の全体構成と各項目の意義と目的が、シラバスからよく理解できましたか。	← 理解できた (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
	2	シラバスに記載された事前準備学修について、当該学修の指示・解説等は適切でしたか。	← 適切だった (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
	3	各実験項目は、講義との関係や実験技術習得及び原理の理解などに十分配慮して選択されていましたか。	← 十分配慮して選択されている (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
	4	テキストは実験を通じた学修の効果を上げるために、適切なものとなっていましたか。	← 適切なものだった (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
	5	実験は、あなたの思考力を養うため、あるいは専門知識を高めるうえで役立ちましたか。	← 役立った (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
設備等について	6	実験機器や設備は十分整備されていましたか。また、人数分に見合った機器が用意され、維持管理は適切になされていましたか。	← 適切になされている (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
	7	化学物質、電気、機械類、重量物などを取り扱う際、安全管理面への配慮は十分になされていましたか。	← 十分になされている (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
教員等について	8	担当のスタッフ（教員、技術職員、TAなど）は、実験の指導に十分な時間を費やし、きめ細かな指導をしましたか。	← きめ細かな指導をした (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
	9	器具の取り扱い、機器の使用方法、実験操作法など実験操作技術に関する指導は十分でしたか。	← 十分であった (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
レポートについて	10	レポート課題は適切に選択されていましたか。内容の深い理解の助けになり、考える力を養う上で役立つものとなっていましたか。	← 役立つものとなっていた (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
	11	データの整理、レポートの書き方、また、不備なレポートの再提出や、返却されたレポートへコメント記入など、十分な指導がありましたか。	← 十分な指導があった (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
実験全体について	12	実験は、上記の項目も含め総合的に判断して、満足できるものでしたか。	← 満足できる (A) (B) (C) (D) (E) → そうは言えない
あなた自身について	13	この実験の事前準備学修・レポート作成に費やした時間は、週あたり何時間くらいですか。	4時間以上 2~4時間未満 1~2時間未満 1時間未満 0時間 (A) (B) (C) (D) (E)
	14	実験に集中できましたか。実験の意味を考えながら行うように努力しましたか。	毎回努力した (A) 普通に実験した (B) 散漫に実験した (C)
	15	* 予備欄	← (A) (B) (C) (D) (E) →
	16	* 予備欄	← (A) (B) (C) (D) (E) →

* 予備欄は、各学部等独自の評価項目がある場合に使用

II 授業の改善に資するためのコメント

良い点	改善すべき点

2. 「学生による授業評価調査」実施要項

資料 2-1

別紙 1

平成 23 年度前期「学生による授業評価」調査実施要項

平成 23 年 5 月 20 日

全学教育企画室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、前期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含まない。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。
- (3) 実施する時期は、平成 23 年 6 月 20 日（月）から 7 月 8 日（金）の間とする。

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあつては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び市民教育科目群（教養教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。
- (6) 教員は、受講生に次のように伝える。
「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うも

ですので、皆さんは責任をもって回答をしてください。記入欄に、授業内容とは直接関係のない内容が記入されている場合は、削除されることがあります。なお、調査用紙の記入内容は、記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

- ① 記入済みの調査用紙の枚数を数え、封筒の「回答者数」欄に人数を鉛筆又はシャープペンで記入する。
- ② 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。
- ③ 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は全学教育課授業支援担当へ直ちに提出する。

4. その他

(1) 記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成 23 年度後期「学生による授業評価」調査実施要項

平成 23 年 11 月 25 日

全学教育企画室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。
- (3) 実施する時期は、平成 24 年 1 月 10 日（火）から 1 月 30 日（月）の間とする。

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあっては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び市民教育科目群（教養教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。
- (6) 教員は、受講生に次のように伝える。
「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うも

ので、皆さんは責任をもって回答をしてください。記入欄に、授業内容とは直接関係のない内容が記入されている場合は、削除されることがあります。なお、調査用紙の記入内容は、記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

① 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。

② 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は全学教育課授業支援担当へ直ちに提出する。

4. その他

(1) 記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成 24 年度前期「学生による授業評価」調査実施要項

平成 24 年 4 月 18 日
教 育 企 画 室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、前期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含まない。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。
- (3) 実施日は、原則として最終授業日とする。

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあつては、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び市民教育科目群（教養教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。

(6) 教員は、受講生に次のように伝える。

「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うものですので、皆さんは責任をもって回答をしてください。記入欄に、授業内容とは直接関係のない内容が記入されている場合は、削除されることがあります。なお、調査用紙の記入内容は、記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をすところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

① 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。

② 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は教育企画課授業支援担当へ直ちに提出する。

4. その他

(1) 記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成 24 年度後期「学生による授業評価」調査実施要項

平成 24 年 11 月 28 日
教 育 企 画 室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。
- (3) **実施日は、原則として最終授業日とする。**

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあっては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び市民教育科目群（教養教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。
- (6) 教員は、受講生に次のように伝える。
「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うも

のですので、皆さんは責任をもって回答をしてください。記入欄には**授業の良い点、改善すべき点を分けて記入してください**。授業内容と直接関係のない内容が記入されている場合は、削除されることがあります。調査用紙の記入内容は、記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知され、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

① 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。

② 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は教育企画課授業支援担当へ直ちに提出する。

4. その他

(1) 記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成 25 年度前期「学生による授業評価」調査実施要項

平成 25 年 4 月 17 日
教 育 企 画 室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、前期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含まない。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。
- (3) 実施日は、原則として最終授業日とする。

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあっては、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び市民教育科目群（教養教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。

(6) 教員は、受講生に次のように伝える。

「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うものですので、皆さんは責任をもって回答をしてください。記入欄に、授業内容とは直接関係のない内容が記入されている場合は、削除されることがあります。なお、調査用紙の記入内容は、記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

① 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。

② 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は教育企画課授業支援担当へ直ちに提出する。

4. その他

(1) 記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成 25 年度後期「学生による授業評価」調査実施要項

平成 25 年 11 月 20 日
教 育 企 画 室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。
- (3) 実施日は、原則として最終授業日とする。

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあつては、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び市民教育科目群（教養教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。

(6) 教員は、受講生に次のように伝える。

「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うものですので、皆さんは責任をもって回答をしてください。記入欄に、授業内容とは直接関係のない内容が記入されている場合は、削除されることがあります。なお、調査用紙の記入内容は、記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知されるので、調査用紙自体を教員が見ることはありません。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をするところまでを見届けることとする。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

① 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。

② 記入済み調査用紙の封入された封筒と、未使用の調査用紙を担当学部学務係又は教育企画課授業支援担当へ直ちに提出する。

4. その他

(1) 記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

平成 26 年度「学生による授業評価」調査実施要項

平成 26 年 5 月 15 日
教 育 企 画 室

1. 目的

学生による授業評価を実施し、授業内容の改善に資するとともに、大学教育の質の保証を図ることを目的とする。

2. 対象及び時期

- (1) 全学共通のフォーマット（マークシート方式）により、学生による授業評価を実施する。
- (2) 対象となる授業は、大学院博士後期課程の授業を除き、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む。）とする。ただし、個人情報保護の精神に留意し、履修登録者 5 人以下の少人数の授業については実施しないものとする。
- (3) 実施日は、原則として最終授業日とする。

3. 実施方法

- (1) 学生による授業評価は無記名とする。
- (2) 各部局から、授業科目名、講義番号、教員名、受講生数、調査用紙記入枚数及び講義・演習又は実験の区分が付記された角 2 の糊付き封筒（調査用紙封入済み）を、担当教員に配付する。
- (3) 調査を実施する授業にあつては、上記期間中のいずれかの授業時に、教員が受講生に調査用紙を配付し、記入に必要な時間（15 分位）を設けて、行なうものとする。
- (4) 調査用紙の配付に先立ち、教員は講義番号、授業科目名及び教員名（姓名とも）を板書する。また、調査用紙は、鉛筆又はシャープペンで記入させる。
- (5) 評価項目のうち調査しない項目又は予備欄を使用する場合は、教員自身の判断ではなく、部局単位で実施するので部局からの指示を受ける。ただし、教育学部及び市民教育科目群（教養教育を含む。）で行われる実技科目の調査しない項目の決定ならびに予備欄の使用については教員自身の判断による。

(6) 教員は、受講生に次のように伝える。

「この授業評価は、授業内容を改善し、さらに充実させることを目的として行うものですので、皆さんは責任をもって回答をしてください。記入欄には授業の良い点、改善すべき点を分けて記入してください。授業内容と直接関係のない内容が記入されている場合は、削除されることがあります。

調査用紙の記入内容は、記入欄の記載事項も含め集計データとして教員に通知され、調査用紙自体を教員が見ることはありません。そのため調査用紙の回収と封は皆さんの代表をお願いします。」

(7) 教員は、当該授業について、調査用紙の回収を依頼する受講生を（大人数講義の場合は複数名）指名する。指名した受講生への依頼内容は、下記(8)のとおり。

教員は、学生が記入済みの調査用紙を封筒に入れ封をするところを確認した後、当該封筒を学生から受け取り学部学務係又は教育企画課授業支援担当に直ちに提出する。

(8) 回収を担当する受講生への依頼内容

① 記入済みの調査用紙の枚数を数え、封筒の「回答者数」欄に人数を鉛筆又はシャープペンで記入する。

② 記入済みの調査用紙を封筒に入れ、封をする。

③ 記入済み調査用紙の封入された封筒と未使用の調査用紙を担当教員に渡す。

4. その他

(1) 記入欄への記載内容を含め、評価結果は集計して、当該担当教員に配付する。

(2) 調査用紙は、当該担当教員に戻さない。

以上

3. 「学生による授業評価調査」調査のスケジュール

資料 3-1

参考

平成23年度前期「学生による授業評価」調査のスケジュール

5/20 (金)	全学教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出・決定
5/30 (月)	マークシートの印刷発注 → 6/9 (木) 納品
5/31 (木)	部局に照会及び実施要項の通知 (封筒用ラベルデータ)
6/9 (木)	全学運営会議に授業評価の実施を報告
6/10 (金)	ラベルシール・封入作業→6/16 (木)
6/17 (金)	部局に調査用紙(マークシート)配付
6/20 (月) ~ 7/8 (金)	*学生による授業評価調査期間
7/19 (火)	部局より調査用紙の回収
7/22 (金)	調査枚数の確定
7/下旬	外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き ↓
8/下旬	納期
9/月上旬	集計結果を部局等に報告
9/中旬以降	各部局にて分析・評価し、全学教育企画室に報告

資料 3-2

参考

平成 23 年度後期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- 11/25 (金) 全学教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出・決定
- 12/2 (金) マークシートの印刷発注 → 12/16 (金) 納品 (2週間)
- 12/2 (金) 部局に照会及び実施要項の通知 (封筒用ラベルデータ)
- 12/19 (月) ラベルシール・封入作業→12/27 (火) 頃まで
 - 1/5 (木) 部局に調査用紙 (マークシート) 配付
 - 1/10 (火) ~ 1/30 (月) *学生による授業評価調査期間
 - 2/7 (火) 部局より調査用紙の回収
 - 2/中旬 外注によるデータ入力及び集計
 - ↓ 調査枚数の確定
- 3/下旬 納期
- 4/上旬 集計結果を部局等に報告
- 4/上旬以降 各部局にて分析・評価し、全学教育企画室に報告

資料 3-3

参考

平成 24 年度前期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- 4 / 18 (水) 教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出・決定
- 5 / 10 (木) 全学運営会議に授業評価の実施を報告
- 5 / 23 (水) 部局に照会及び実施要項の通知
(封筒用ラベルデータ)
- 5 / 下旬 マークシートの印刷発注 → 6 / 中旬 納品
- 6 / 中旬 ラベルシール・封入作業
- 6 / 下旬 部局に調査用紙(マークシート)配付
- 7 月 *学生による授業評価調査期間(原則最終授業日)
- 8 / 10 (金) 部局より調査用紙の回収
- 8 / 17 (金) 調査枚数の確定
- 8 / 下旬 外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
↓
- 9 / 中旬 自由記入欄記述チェック(誹謗・中傷表現含んだ記述削除)
- 9 / 下旬 納期
- 10 / 月上旬 集計結果を部局等に報告

平成 24 年度後期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- 11/28 (水) 教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出・決定
- 12/3 (月) 部局に照会及び実施要項の通知
(封筒用ラベルデータ)
- 12/7 マークシートの印刷発注 → 12/21頃 納品
- 12/下旬 ラベルシール・封入作業
- 1/第2週 部局に調査用紙(マークシート)配布
- 1/下旬 *学生による授業評価調査期間(原則最終授業日)
- 2/15 (金) 部局より調査用紙の回収
- 2/19 (火) 調査枚数の確定
- 2/下旬 外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
↓
- 3/中旬 自由記入欄記述チェック(誹謗・中傷表現含んだ記述削除)
- 3/下旬 納期
- 4/月上旬 集計結果を部局等に報告

資料 3-5

参考

平成 25 年度前期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- | | |
|------------|-------------------------------|
| 4 / 17 (水) | 教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出・決定 |
| 5 / 9 (木) | 全学運営会議に授業評価の実施を報告 |
| 5 / 28 (火) | 部局に照会及び実施要項の通知
(封筒用ラベルデータ) |
| 5 / 下旬 | マークシートの印刷発注 → 6 / 中旬 納品 |
| 6 / 中旬 | ラベルシール・封入作業 |
| 6 / 下旬 | 部局に調査用紙(マークシート)配付 |
| 7 月 | *学生による授業評価調査期間(原則最終授業日) |
| 8 / 12 (月) | 部局より調査用紙の回収 |
| 8 / 16 (金) | 調査枚数の確定 |
| 8 / 下旬 | 外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
↓ |
| 9 / 中旬 | 自由記入欄記述チェック(誹謗・中傷表現含んだ記述削除) |
| 9 / 下旬 | 納期 |
| 10 / 上旬 | 集計結果を部局等に報告 |

資料 3-6

平成 25 年度後期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- | | |
|----------|-------------------------------|
| 12/2 (月) | マークシートの印刷発注 → 12/20 頃 納品 |
| 12/6 (金) | 部局に照会及び実施要項の通知
(封筒用ラベルデータ) |
| 12/下旬 | ラベルシール・封入作業 |
| 1/第2週 | 部局に調査用紙(マークシート)配布 |
| 1/下旬 | *学生による授業評価調査期間(原則最終授業日) |
| 2/14 (金) | 部局より調査用紙の回収 |
| 2/18 (火) | 調査枚数の確定 |
| 2/下旬 | 外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
↓ |
| 3/中旬 | 自由記入欄記述チェック(誹謗・中傷表現含んだ記述削除) |
| 3/下旬 | 納期 |
| 4/月上旬 | 集計結果を部局等に報告 |

資料 3-7

参考

平成 25 年度前期「学生による授業評価」調査のスケジュール

- 4 / 17 (水) 教育企画室に調査項目案及び実施要項案を提出・決定
- 5 / 9 (木) 全学運営会議に授業評価の実施を報告
- 5 / 28 (火) 部局に照会及び実施要項の通知
(封筒用ラベルデータ)
- 5 / 下旬 マークシートの印刷発注 → 6 / 中旬 納品
- 6 / 中旬 ラベルシール・封入作業
- 6 / 下旬 部局に調査用紙(マークシート)配付
- 7 月 *学生による授業評価調査期間(原則最終授業日)
- 8 / 12 (月) 部局より調査用紙の回収
- 8 / 16 (金) 調査枚数の確定
- 8 / 下旬 外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
↓
- 9 / 中旬 自由記入欄記述チェック(誹謗・中傷表現含んだ記述削除)
- 9 / 下旬 納期
- 10 / 月上旬 集計結果を部局等に報告

資料 3-8

平成 26 年度後期「学生による授業評価」調査のスケジュール

11/4 (火)	マークシート納品
11/6 (木)	部局に照会及び実施要項の通知 (封筒用ラベルデータ)
12/下旬	ラベルシール・封入作業
1/第2週	部局に調査用紙(マークシート)配布
1/下旬	*学生による授業評価調査期間(原則最終授業日)
2/10 (火)	部局より調査用紙の回収
2/17 (火)	調査枚数の確定
2/下旬	外注によるデータ入力及び集計業務契約手続き
	↓
3/中旬	自由記入欄記述チェック(誹謗・中傷表現含んだ記述削除)
3/下旬	納期
4/上旬	集計結果を部局等に報告

4. 「学生による授業評価」調査の実施について

資料 4-1

平成 23 年 6 月 9 日

工学部学生各位

埼 玉 大 学

平成 23 年度前期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 23 年度前期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

平成 23 年 6 月 20 日(月)～平成 23 年 7 月 8 日(金)

上記期間内のいずれかの授業時間中に行います。

2. 調査対象授業

大学院博士後期課程の授業を除く、前期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含まない）

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 23 年 12 月 2 日

学生各位

埼 玉 大 学

平成 23 年度後期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 23 年度後期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

平成 24 年 1 月 10 日(火)～平成 24 年 1 月 30 日(月)

上記期間内のいずれかの授業時間中に行います。

2. 調査対象授業

大学院博士後期課程の授業を除く、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む）

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 24 年 6 月 8 日

学生各位

埼 玉 大 学

平成 24 年度前期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 24 年度前期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

原則として最終授業日

2. 調査対象授業

大学院博士後期課程の授業を除く、前期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含まない）

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 25 年 1 月 7 日

学生各位

埼 玉 大 学

平成 24 年度後期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 24 年度後期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

原則として最終授業日

2. 調査対象授業

大学院博士後期課程の授業を除く、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む）

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 25 年 6 月 7 日

学生各位

埼 玉 大 学

平成 25 年度前期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 25 年度前期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

原則として最終授業日

2. 調査対象授業

大学院博士後期課程の授業を除く、前期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含まない）

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 26 年 1 月 6 日

学生各位

埼 玉 大 学

平成 25 年度後期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 25 年度後期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

原則として最終授業日

2. 調査対象授業

大学院博士後期課程の授業を除く、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む）

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成26年6月4日

学生各位

埼 玉 大 学

平成26年度前期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成26年度前期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

原則として最終授業日

2. 調査対象授業

大学院博士後期課程の授業を除く、前期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含まない）

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。

平成 27 年 1 月 4 日

学生各位

埼 玉 大 学

平成 26 年度後期「学生による授業評価」調査の実施について

本学では、授業内容の改善に資するとともに教育のレベルアップを図ることを目的として、平成 26 年度後期の「学生による授業評価」調査を下記のとおり実施することといたしました。

この調査は、現在受講している授業について、学習と授業内容がどのようなものであったかをマークシートにより、回答いただくものです。協力をお願いいたします。

記

1. 調査期間

原則として最終授業日

2. 調査対象授業

大学院博士後期課程の授業を除く、後期に開講されている全ての授業科目（通年授業科目を含む）

3. 調査方法等

本調査は、無記名で行われます。調査の結果は一括して処理され、個々の調査用紙が公表されることはありません。

また、当然のことですが、成績評価には全く影響することはありませんので、真摯で率直な感想や意見を記入して下さい。



平成 23 年度埼玉大学工学部 FD シンポジウム

「コミュニケーション力」と「学力」を考える

近年、大学生の「コミュニケーション力」と「学力」の低下が指摘されることが多くなってきました。そこで本年度は、本学教育学部学校教育臨床講座教授の岩川直樹先生にご講演をお願いしてこの問題について考える機会を設けることにしました。教職員、学生の皆さんの多くのご参加をお願いします。

【講演概要】

「コミュニケーション力」が失われたからソーシャル・スキルズ・トレーニングをする。「学力」が低下したから計算や漢字のドリルを強化する。現在の学校と社会に浸透するその発想は、池の水が干上がってきたから泳げなくなってきた鯉に、ヒレの振り方のスキルを教え込むようなものなのではないか。教育の「問題」をもっぱら個人の「力」のスキルに還元するその発想は、状況のなかで他者と探求する人間の対話や思考の意味を狭く限定することで、「問題」の关系的・社会的基盤を見失うと同時に「できる」ひとと「できない」ひとの社会的序列を強め、結果として「できる」とされるひとびとの対話や思考をも貧しくしてしまっているのではないか。学校をフィールドとする教育の臨床研究の立場から、現在の「コミュニケーション力」や「学力」の見方に対する問い直しを提起する。

日時：平成23年12月2日(金) 午後1時から

場所：シアター教室 総合研究棟1階

はじめに 工学部長

第一部 FD 講演会

「コミュニケーション力」と「学力」を考える

講師：本学教育学部教授 岩川直樹 先生

第二部 ベストレクチャー賞表彰式

1. ベストレクチャー賞について FD 部会長
2. ベストレクチャー賞表彰式
3. 講義を行うためのワンポイント・アドバイス

おわりに 副工学部長

主催 / 工学部教育企画委員会 F D 部会 共催 / 理工学研究科教育企画委員会 F D 部会

後援 / 全学教育・学生支援機構 全学教育企画室

問い合わせ先 / 埼玉大学工学部学務係 (TEL 048-858-3429 内線 4408)

初年次教育を考える

現在、工学部では各学科毎に初年次向けの教育を工夫しながら実施していますが、これらの取り組みの現状を報告し合い、意見交換を行うことで、参考にするべきところ、改善すべきところを互いに見出し、今後の初年次教育へとフィードバックすることで教育改善に繋がりたいと考えます。

また、工学部共通の初年次教育としては「工学入門セミナー」が設定されていますが、開設 1 年目を終えて様々な課題が見えてきました。学生の皆さんによる授業評価結果なども踏まえて、今後の授業に役立てるべく議論を深めたいと考え、このような機会を設けることにしました。教職員のみならず、昨年度「工学入門セミナー」を受講した 2 年生ならびにティーチングアシスタントを担当した大学院生、また多くの方々のご参加をお願いします。

日時：平成 24 年 12 月 7 日 (金) 午後 2 時 40 分 ~

場所：国際セミナー室 理工学研究科棟 7 階

はじめに 工学部長

第一部 ベストレクチャー賞表彰式

1. ベストレクチャー賞について FD 部会長
2. ベストレクチャー賞表彰式
3. 講義を行うためのワンポイント・アドバイス

第二部 FD シンポジウム ~ 初年次教育を考える ~

1. 各学科における初年次教育の取り組み
2. 「工学入門セミナー」 現状と課題

おわりに 副工学部長

主催 / 工学部教育企画委員会 FD 部会 共催 / 大学院理工学研究科教育企画委員会 FD 部会
後援 / 教育機構 教育企画室

問い合わせ先 / 埼玉大学工学部学務係 (TEL 048-858-3429 内線 4408)

平成 25 年度埼玉大学工学部 FD シンポジウム

授業における新しい IT 基盤の活用について

本年度より埼玉大学では全学的に授業において使用する資料やレポート、課題等を確認することができる授業支援システム（WebClass）を導入しました。しかしながら、導入して間もないため、「どのように活用すればいいのか？」「配布資料の著作権の問題は大丈夫か？」といった声が教員より多く聞かれました。

そこで本年度は、実際に授業で授業支援システム（WebClass）を活用されている先生と著作権の問題に詳しい先生をお願いをして活用方法及び注意点をご紹介いただき、授業支援システム（WebClass）の活用方法について考える機会を設けることにしました。教職員、学生の皆さんの多くのご参加をお願いします。

日時：平成 25 年 11 月 15 日（金） 14:40 より

場所：シアター教室 総合研究棟 1 階

はじめに 工学部長

第一部 ベストレクチャー賞表彰式

1. ベストレクチャー賞について FD 部会長
2. ベストレクチャー賞表彰式
3. 講義を行うためのワンポイント・アドバイス

第二部 講演

1. 「授業支援システム（WebClass）の活用方法」

講師：工学部 電気電子システム工学科 内田 秀和 先生

2. 「教材で使用する資料の著作権について」

講師：経済学部 非常勤講師 米澤 明 先生

主催 / 工学部教育企画委員会 FD 部会 共催 / 大学院理工学研究科教育企画委員会 FD 部会

後援 / 教育機構 教育企画室

問い合わせ先 / 埼玉大学工学部学務係 (TEL 048-858-3429 内線 4408)

平成 26 年度埼玉大学工学部 FD シンポジウム

新しい TA の活用について

今年度から TA が担当できる補助業務の範囲が拡大されました。また成績優秀な学部 4 年生が SA として授業を補助できる制度も始まりました。このように、教員が講義をより良く行えるような環境整備が進んでいます。しかしながら、新たな TA の担当業務は十分に周知されていないと思われます。また SA 制度については今年度後期から実施されたばかりで、来年度以降での活用をご検討される教員もおられると思われます。

そこで本年度は、「新しい TA の活用について」をテーマとして、“教育機構における TA の活用例”をご紹介いただき、工学部における TA 活用を考える機会を設けました。さらに、工学部長より“新しい TA および SA 制度”についてご説明いただくことになりました。本シンポジウムがより良い講義の構築に少しでも役立てれば幸いです。教職員、学生の皆さんの多くのご参加をよろしくお願い致します。

日時：平成 26 年 12 月 5 日（金） 14:40 より

場所：シアター教室 総合研究棟 1 階

はじめに 工学部長

第一部 ベストレクチャー賞表彰式

1. ベストレクチャー賞について FD 部会長
2. ベストレクチャー賞表彰式
3. 講義を行うためのワンポイント・アドバイス

第二部 講演

1. 「アクティブ・ラーニングで学ぶ国際関係論入門」
講師：教育機構 細井 優子 先生
2. 「新しい TA 及び SA 制度について---TA の活用事例を交えて---」
講師：工学部長 重原 孝臣 先生

主催 / 工学部教育企画委員会 FD 部会 共催 / 大学院理工学研究科教育企画委員会 FD 部会

後援 / 教育機構 教育企画室

問い合わせ先 / 埼玉大学工学部学務係 (TEL 048-858-3429 内線 4408)

6. 教員相互授業参観（オープンクラス）の実施について

資料6-1

平成23年10月25日
工学部教育企画委員会FD部会

平成23年度教員相互授業参観(オープンクラス)の実施について

1. 実施目的

工学部では学生による授業評価を積極的に導入し、授業に対して学生側からの率直な評価を受けています。また、授業評価の結果は次年度以降の授業改善に役立てられており、効果を発揮していると思われま。工学部に所属する教員の多くは授業を開始するにあたって特別な教育を受けたわけではありません。そこで、自らが教壇に立つ立場になっても経験豊かな教員や他の教員の授業を参観し参考にする姿勢は必要です。また、自分の授業の善し悪しについて客観的な評価をくださことは難しく、同様の授業を行っている教員から率直な意見をもらい、今後の授業改善に役立てることを目的として授業参観を行います。

2. 実施期間

平成23年11月7日(月)～11月18日(金)

3. 参観対象科目

全授業を参観科目とします。(別紙参照)

4. 参観方法およびアンケート

- (1) どの学科の授業を参観されても結構です。2科目以上の授業を参観してください。
休講情報に関しては、「工学部HP 在学生のみなさんへ 休講情報」から確認してください。
- (2) 参観時間は1科目あたり20分以上としてください。
- (3) メールでアンケート用紙を送付させていただきますので、参観終了後、1週間以内に記入して頂き(無記名)、工学部学務係に提出してください。提出はEメールで結構です。その際には記入したアンケートのファイルを添付するか、もしくは必要事項のみ送信してください。
送信先：a9237038@mail.saitama-u.ac.jp
アンケート用紙ファイルは工学部HPからもDL出来ます。
工学部HP 教職員向け情報(学内限定) FD部会 教員相互の授業参観(オープンクラス)
- (4) アンケートの質問内容は、参観した授業への感想や意見、ご自身の授業において改善しようと思った点、授業参観実施に対する感想や意見とします。
- (5) 質問 に対する回答を参観した授業ごとに授業参観アンケート(a)に記入してください。また、質問 と に対する回答は授業参観アンケート(b)に記入してください。
- (6) 質問 の回答内容については、公開科目の担当教員に無記名のままお知らせします。
質問 、 の回答内容については、原則としてFD部会のウェブ上に無記名のまま開示します。

平成24年度教員相互授業参観(オープンクラス)の実施について

1. 実施目的

工学部では学生による授業評価を積極的に導入し、授業に対して学生側からの率直な評価を受けています。また、授業評価の結果は次年度以降の授業改善に役立てられており、効果を発揮していると思われま。工学部に所属する教員の多くは授業を開始するにあたって特別な教育を受けたわけではありません。そこで、自らが教壇に立つ立場になっても経験豊かな教員や他の教員の授業を参観し参考にする姿勢は必要です。また、自分の授業の善し悪しについて客観的な評価をくださことは難しく、同様の授業を行っている教員から率直な意見をもらい、今後の授業改善に役立てることを目的として授業参観を行います。

2. 実施期間

平成24年6月18日(月)～6月30日(土)

(水曜授業実施日6/23(土)、木曜授業実施日6/30(土)含む)

3. 参観対象科目

全授業を参観科目とします。(時間割参照)

4. 参観方法およびアンケート

- (1) どの学科の授業を参観されても結構です。2科目以上の授業を参観してください。
- (2) 時間割、過去のベストレクチャー受賞者、休講情報等に関しては、
「工学部HP 教職員向け情報(学内限定) FD部会 教員相互の授業参観(オープンクラス) 時間割」より確認頂けます。
- (2) 参観時間は1科目あたり20分以上としてください。
- (3) メールでアンケート用紙を送付させていただきますので、参観終了後1週間以内に記入して頂き(無記名)、Eメールで工学部学務係太田まで提出願います。なお、その際に提出状況を把握するためCCで各学科FD担当教員にも送付頂きますようお願い致します。
送信先：a9237038@mail.saitama-u.ac.jp
アンケート用紙ファイルは工学部HP(上記(2)と同じ場所)からもダウンロード出来ます。
- (4) アンケートの質問内容は、参観した授業への感想や意見、ご自身の授業において改善しようと思った点、授業参観実施に対する感想や意見とします。
- (5) 質問 に対する回答を参観した授業ごとに授業参観アンケート(a)に記入してください。また、質問 と に対する回答は授業参観アンケート(b)に記入してください。
- (6) 質問 の回答内容については、公開科目の担当教員に無記名のままお知らせします。質問 、 の回答内容については、原則としてFD部会のウェブ上に無記名のまま開示します。

平成25年度教員相互授業参観(オープンクラス)の実施について

1. 実施目的

工学部では学生による授業評価を積極的に導入し、授業に対して学生側からの率直な評価を受けています。また、授業評価の結果は次年度以降の授業改善に役立てられており、効果を発揮していると思われます。工学部に所属する教員の多くは授業を開始するにあたって特別な教育を受けたわけではありません。そこで、自らが教壇に立つ立場になっても経験豊かな教員や他の教員の授業を参観し参考にする姿勢は必要です。また、自分の授業の善し悪しについて客観的な評価をくださことは難しく、同様の授業を行っている教員から率直な意見をもらい、今後の授業改善に役立てることを目的として授業参観を行います。

2. 実施期間

平成25年10月18日(金)～11月12日(火)
期間を延長させていただきました。

3. 参観対象科目

原則として全授業を参観科目とします。(休講、試験等の情報はFD部会HPの時間割に記載)

4. 参観方法およびアンケート

- (1) どの学科の授業を参観されても結構です。2科目以上の授業を参観してください。
- (2) 時間割、過去のベストレクチャー受賞者、休講情報等に関しては、「工学部HP 教職員向け情報(学内限定) FD部会 教員相互の授業参観(オープンクラス) 時間割」より確認頂けます。
- (3) 参観時間は1科目あたり20分以上としてください。
- (4) メールでアンケート用紙を送付させていただきますので、参観終了後1週間以内に記入して頂き(無記名)、Eメールに記入したデータを添付し、工学部学務係太田まで提出願います。なお、その際に提出状況を把握するためCCで各学科FD担当教員にも送付頂きますようお願い致します。
送信先：a9237038@mail.saitama-u.ac.jp
アンケート用紙ファイルは工学部HP(上記(2)と同じ場所)からもダウンロード出来ます。
- (5) アンケートの質問内容は、参観した授業への感想や意見、ご自身の授業において改善しようと思った点、授業参観実施に対する感想や意見とします。
- (6) 質問 に対する回答を参観した授業ごとに授業参観アンケート(a)に記入してください。また、質問 と に対する回答は授業参観アンケート(b)に記入してください。
- (7) 質問 の回答内容については、公開科目の担当教員に無記名のままお知らせします。質問 、 の回答内容については、原則としてFD部会のウェブ上に無記名のまま開示します。

平成26年度教員相互授業参観(オープンクラス)の実施について

1. 実施目的

工学部では学生による授業評価を積極的に導入し、授業に対する学生側からの率直な評価を受けています。授業評価の結果は次年度以降の授業改善に役立てられるように各教員に知らされますが、工学部に所属する教員の多くは授業のための特別な教育を受けていません。そこで、経験豊かな教員や他の教員の授業を参考にし、かつ客観的な意見をもらうことでより効率良く授業改善を行うための機会を設けることを目的として、教員相互の授業参観を実施いたします。

2. 実施期間

平成26年6月23日(月)～7月4日(金)

3. 参観対象科目

原則として全授業を参観科目とします。(休講、試験等の情報はFD部会HPの時間割に記載)

4. 参観方法およびアンケート

- (1) どの学科の授業を参観されても結構です。2科目以上の授業を参観してください。
- (2) 時間割、過去のベストレクチャー受賞者、休講情報等に関しては、
「工学部HP 教職員向け情報(学内限定) FD部会 教員相互の授業参観(オープンクラス) 時間割」より確認頂けます。
- (3) 参観時間は1科目あたり20分以上としてください。
- (4) メールでアンケート用紙を送付させていただきますので、参観終了後1週間以内に記入して頂き(無記名)、Eメールに記入したデータを添付し、件名を「オープンクラスアンケート」として工学部学務係太田まで提出願います。なお、その際に提出状況を把握するためCCで各学科FD担当教員にも送付頂きますようお願い致します。
送信先：a9237038@mail.saitama-u.ac.jp
アンケート用紙ファイルは工学部HP(上記(2)と同じ場所)からもダウンロード出来ます。
- (5) アンケートの質問内容は、参観した授業への感想や意見、ご自身の授業において改善しようと思った点、授業参観実施に対する感想や意見とします。
- (6) 質問 に対する回答を参観した授業ごとに授業参観アンケート(a)に記入してください。また、質問 と に対する回答は授業参観アンケート(b)に記入してください。
アンケート記入後はファイル名の「(名前)H26アンケート」の(名前)部分にご自身の名前を入れて頂きますようお願いいたします。(a,bとも)
- (7) 質問 の回答内容については、公開科目の担当教員に無記名のままお知らせします。質問 、 の回答内容については、原則としてFD部会のウェブ上に無記名のまま開示します。

平成 26 年度(前期) 授業参観アンケート(a)

工学部 FD 部会

【回答方法】

授業参観に参加した感想や意見を無記名で自由にお書きください。記入後は、ファイル名「(名前) H26 アンケート a」の(名前)部分にご自身の名前を入れて頂き、メールにデータを添付して工学部学務係の太田まで送付してください。その際に CC で各学科の FD 委員の先生にも送付頂きますようお願いいたします。なお、寄せられました感想や意見につきましては、担当教員に無記名のままお渡しします。

授業科目名		学科名	
担当教員名	先生	講義室	
参観した授業への感想・意見			

平成 26 年度(前期) 授業参観アンケート(b)

工学部 FD 部会

【回答方法】

授業参観に参加した感想や意見を無記名で自由にお書きください。記入後は、ファイル名「(名前) H26 アンケート b」の(名前)部分にご自身の名前を入れて頂き、メールにデータを添付して工学部学務係の太田まで送付してください。その際に CC で各学科の FD 委員の先生にも送付頂きます様お願いいたします。なお、寄せられました感想や意見につきましては、工学部 FD 部会のウェブ上に無記名のまま開示します。

所属学科：

授業を参観して、ご自身の授業で改善しようと思ったことがあればお書きください。

授業参観の実施に対して感想や意見を自由にお書きください。

7. 工学部・教員研修 (FD) ガイドライン

資料 7-1

工学部・教員研修 (FD) ガイドライン

平成 19 年 9 月 3 日 工学部 FD 部会制定

埼玉大学工学部では、教員研修 (FD) の一環として、平成 12 年度からは学生による授業評価アンケートを、また平成 14 年度からは FD シンポジウム実施してきました。黎明期・導入期を経て、現在は、安定した普及期にあると言えます。学生、教職員の協力のもとに行われてきたこれらの FD 活動を、各教員の授業技能の向上につなげ、教育力向上に発展させていくことが今後の課題です。一方、教育力の維持・向上には、学生と教職員間のみならず教員同士のコミュニケーションも今後、益々重要になると考えられます。フィードバックとコミュニケーション、それらを円滑にするために、ここに、工学部教員研修 (FD) ガイドラインを制定します。

1. 授業評価アンケートに関する指針

工学部 FD 部会は、学期毎に実施される学生による授業評価結果を (4-5 年) 毎に調査・解析し、その結果を公開する。

各学科は、所属する教員が学科内の個々の教員に対する授業評価結果を自由に閲覧できるように適切な公開方法を検討し、それを実施する。

各教員は、授業評価結果や自己の反省などにもとづいて、次年度における授業改善計画を作成し、教員活動報告書の中で、それを記述する。

2. 授業技能向上に関する指針

各学科の教育改善委員会や教科関連携委員会等は、委員会を学期毎に開催し、授業評価結果を参考に授業技能向上に関する検討を行う。また、その審議内容を記録・保存し、必要な場合に開示できるようにする。

各学科の FD 活動の責任者は、学生による授業評価が数年間 (3-4 年) 著しく低い教科の担当教員に対してヒアリングをおこない、その授業技能向上に向けての改善計画をたて、実施させることができる。

3. FD 活動に関する情報の交換に関する指針

工学部 FD 部会は、FD シンポジウムあるいは公開討論会 (フォーラム) を年 1 回開催する。

工学部 FD 部会は、教職員のみならず、教職員と学生間で FD 活動に関する正確・

最新の情報を共有し、情報交換に役立てるようするため、FD 活動に関するホームページを開設する。

各学科の教科間連携委員会や教育改善委員会等は、受講生の動向や FD 活動に関する正確・最新の情報を共有する。

各教員は、講義を履修する学生に対して授業改善事項を初回講義時に説明する。

4. 授業マニュアルの作成に関する指針

工学部 FD 部会は、教員が授業を行う際に最低限守るべきマナーおよび励行すべき事例をリーフレットとして作成し、これを教員に配布する。数年毎に内容の更新を行う。

5. 教員相互の授業参観（オープンクラス）に関する指針

工学部 FD 部会は、学部単位で共通の授業公開期間を設ける。その期間、教員は授業を参観できる。

6. 授業技能優秀者の表彰に関する指針

工学部 FD 部会からの推薦を受けて、工学部長は優れた授業技能を有する教員に「ベストレクチャー賞」を授与する。選考は、「学生による授業評価」を考慮した適切な選考基準のもとに行う。選考基準は工学部FD部会が作成する。

7. 教員に対する研修活動参加要請に関する指針

工学部 FD 部会は、工学部全教員に対して本学内外で開催される授業参観、FD シンポジウム等のFD活動への参加を要請することができる。特に、本学着任間もない授業経験の少ない教員に対しては、着任後 2 年間を目処に、これを強く要請することができる。

ベストレクチャー賞について

平成 19 年 9 月 3 日工学部 F D 部会制定
平成 24 年 2 月 6 日改訂

1. 選考基準

以下のカテゴリー及び対象科目において、「学生による授業評価」の結果の最高評価点の者をベストレクチャー賞の該当者として工学部長へ推薦する。

2. カテゴリー

- 1)50 人までの講義
- 2)90 人までの講義
- 3)それ以上の講義
- 4)演習(授業名に「演習」と付く講義が該当)

3. 対象講義条件

回答率 6 割以上

4. 評価点の算出方法

項目 1 から 12 までの平均点に、「あなた自身について」の項目中「授業にどれだけ出席しましたか。」の問いに対して次のように重み付けを行い、評価点を算出する。

- 1)ほぼ全回 そのままの点数 …a
- 2)3/4 以上 点数の 8 割を考慮…b
- 3)3/4 未満 点数の 6 割を考慮…c

評価点= (a 平均 * a 人数 * 1.0 + b 平均 * b 人数 * 0.8 + c 平均 * c 人数 * 0.6) / (a 人数 * 1.0 + b 人数 * 0.8 + c 人数 * 0.6)

附則 (平成 24 年 2 月 6 日)

平成 24 年度のベストレクチャー賞選考会議から適用する。

ベストレクチャー賞について

平成19年9月3日工学部 F D 部会制定

改正 平成24年2月 6日

平成25年7月22日

1. 選考基準

以下の対象講義条件を満たす科目のうち、「学生による授業評価」の結果が各カテゴリーで最高評価点の者をベストレクチャー賞の候補者として工学部長へ推薦する。

2. カテゴリー

- 1)履修登録者50名以下の講義
- 2)履修登録者51名以上90名以下の講義
- 3)履修登録者91名以上の講義
- 4)演習(授業名に「演習」と付く講義が該当)

3. 対象講義条件

回答率6割以上、かつ回答者数10名以上

4. 評価点の算出方法

項目1から12まで(5, 6を除く)の平均点に、「あなた自身について」の項目中「授業にどれくらい出席しましたか。」の問いに対して次のように重み付けを行い、評価点を算出する。

- 1)ほぼ全回 そのままの点数 …a
- 2)3/4 以上 点数の8割を考慮 …b
- 3)3/4 未満 点数の6割を考慮 …c

評価点 = (a平均 * a人数 * 1.0 + b平均 * b人数 * 0.8 + c平均 * c人数 * 0.6) / (a人数 * 1.0 + b人数 * 0.8 + c人数 * 0.6)

附則 (平成24年2月6日)

平成24年度のベストレクチャー賞選考会議から適用する。

附則

平成25年度のベストレクチャー賞選考会議から適用する。

ベストレクチャー賞について

平成19年9月3日工学部 F D 部会制定

改正 平成24年2月 6日

平成25年7月22日

平成27年3月31日

1. 選考基準

以下の対象講義条件を満たす科目のうち、「学生による授業評価」の結果がカテゴリー 1 及び 2 については評価点の上位 2 名を、カテゴリー 3 及び 4 については評価点の上位 1 名をベストレクチャー賞の候補者として工学部長へ推薦する。

2. カテゴリー

- 1)履修登録者50名以下の講義
- 2)履修登録者51名以上90名以下の講義
- 3)履修登録者91名以上の講義
- 4)演習(授業名に「演習」と付く講義が該当)

3. 対象講義条件

回答率 8 割以上、かつ回答者数 1 0 名以上

4. 評価点の算出方法

項目1から11までの平均点に、「あなた自身について」の項目中「授業にどれくらい出席しましたか。」の問いに対して次のように重み付けを行い、評価点を算出する。

- 1)ほぼ全回 そのままの点数 …a
- 2)3/4 以上 点数の8割を考慮 …b
- 3)3/4 未満 点数の6割を考慮 …c

評価点= (a平均 * a人数 * 1.0 + b平均 * b人数 * 0.8 + c平均 * c人数 * 0.6) / (a人数 * 1.0 + b人数 * 0.8 + c人数 * 0.6)

附則 (平成24年2月6日)

平成24年度のベストレクチャー賞選考会議から適用する。

附則 (平成25年7月22日)

平成25年度のベストレクチャー賞選考会議から適用する。

附則 (平成27年3月31日)

平成27年度のベストレクチャー賞選考会議から適用する。